

日本目録規則

Nippon Cataloging Rules

2018年版

日本図書館協会目録委員会編

第2部 属性

<属性の記録>

セクション2 著作、表現形、体現形、個別資料

第2章 体現形

#2.14～#2.33 (キャリアに関する情報)

2018年12月25日 作成

2019年1月7日 公開

2022年1月28日 最終更新

* 問い合わせ先 日本図書館協会目録委員会：ncr@jla.or.jp

編集 日本図書館協会目録委員会

発行 公益社団法人日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14

Tel. 03-3523-0811 Fax. 03-3523-0841

更新履歴

日付	条項番号	更新内容	備考
2019. 3. 10	#2. 17. 1. 1. 2 別法 任意追加	「33p」を「33 p」に修正	
2019. 3. 10	#2. 17. 1. 1. 9	2行目の「、」を赤字から黒字に修正	
2019. 7. 5	#2. 14. 0. 4. 1 任意追加	「（参照：#2. 18. 0. 2. 1 を見よ。）」を 「（参照：#2. 18. 0. 2. 2 を見よ。）」に 修正	
2019. 7. 5	#2. 17. 2、 #2. 17. 2 別法	「#2. 17. 1～#2. 17. 1. 5 別法」を 「#2. 17. 1～#2. 17. 1. 5 任意追加」に修正	
2022. 1. 28	#2. 17. 0. 2A	「現在のキャリアについて記述し」を 「現在のキャリアについて記録し」に修 正	
2022. 1. 28	#2. 17. 4 別法	「巻もの」を「巻物」に修正	
2022. 1. 28	#2. 18. 0. 2. 2a)	「（箱入りの地球儀）」を「（箱入の地 球儀）」に修正	
2022. 1. 28	#2. 23. 0. 2	「識別または選択に重要な場合は、世代 の種類を、」を「世代の種類は、」に修 正	

第 2 章 体現形 #2.14～#2.33 (キャリアに関する情報)

目次

<#2.14～#2.33 キャリアに関する情報>	9
#2.14 キャリアに関する情報.....	9
#2.14.0 通則.....	9
#2.14.0.1 記録の目的.....	9
#2.14.0.2 記録の範囲.....	9
#2.14.0.3 情報源.....	9
#2.14.0.4 記録の方法.....	10
#2.14.0.4.1 複数のキャリア種別から成る体現形.....	10
#2.14.0.4.1 複数のキャリア種別から成る体現形 任意追加	11
#2.14.0.5 複製.....	11
#2.14.0.6 変化.....	11
<#2.15～#2.33 キャリアに関する情報のエレメント>	12
#2.15 機器種別.....	12
#2.15.0 通則.....	12
#2.15.0.1 記録の範囲.....	12
#2.15.0.2 記録の方法.....	12
#2.15.0.2.1 複数の機器種別.....	13
#2.15.0.2.1 複数の機器種別 別法.....	13
#2.16 キャリア種別	14
#2.16.0 通則.....	14
#2.16.0.1 記録の範囲.....	14
#2.16.0.2 記録の方法.....	14
#2.16.0.2.1 複数のキャリア種別	16
#2.16.0.2.1 複数のキャリア種別 別法	16
#2.17 数量.....	16
#2.17.0 通則.....	16
#2.17.0.1 記録の範囲	16
#2.17.0.2 記録の方法	16
#2.17.0.2A 和古書・漢籍.....	19
#2.17.0.2.1 下位ユニット	19
#2.17.0.2.1A コンピュータ・ディスク等.....	20
#2.17.0.2.1A コンピュータ・ディスク等 任意追加	20
#2.17.0.2.1B マイクロフィッシュ、マイクロフィルム.....	20

#2.17.0.2.1.1	複数のユニットから成る場合	21
#2.17.0.2.2	正確なユニット数が不明な場合	21
#2.17.0.2.2	正確なユニット数が不明な場合 任意省略	21
#2.17.0.2.3	多種類のキャリアから成る場合	21
#2.17.0.2.3	多種類のキャリアから成る場合 任意省略	22
#2.17.0.2.4	刊行が完結していない資料、全体のユニット数が不明な資料	22
#2.17.0.2.4	刊行が完結していない資料、全体のユニット数が不明な資料 別法	22
#2.17.0.2.5	同一内容の複数セットから成る場合	22
#2.17.0.2.6	コレクションを包括的に記述する場合	23
#2.17.0.2.6	コレクションを包括的に記述する場合 任意追加 1	23
#2.17.0.2.6	コレクションを包括的に記述する場合 任意追加 2	23
#2.17.0.2.7	資料の部分を分析的に記述する場合	23
<#2.17.1～#2.17.5	各種の資料の数量>	24
#2.17.1	テキストの数量	24
#2.17.1.1	冊子 1 冊の資料	24
#2.17.1.1.1	ページ数等	24
#2.17.1.1.1	ページ数等 別法	24
#2.17.1.1.1A	初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）	25
#2.17.1.1.2	数字等	25
#2.17.1.1.2	数字等 任意追加	25
#2.17.1.1.2	数字等 別法	25
#2.17.1.1.2	数字等 別法 任意追加	26
#2.17.1.1.3	ページ付のない資料	26
#2.17.1.1.4	複数のページ付	26
#2.17.1.1.4A	初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）	27
#2.17.1.1.5	複雑または不規則なページ付	27
#2.17.1.1.5A	初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）	28
#2.17.1.1.6	誤解の恐れのあるページ付	28
#2.17.1.1.7	不完全な資料	28
#2.17.1.1.8	途中から始まるページ付	29
#2.17.1.1.9	図版	29
#2.17.1.1.9.1	ページ付のある図版	29
#2.17.1.1.9.2	ページ付のない図版	30
#2.17.1.1.10	折り込まれた紙葉	30
#2.17.1.1.11	袋綴じの紙葉	30
#2.17.1.1.12	重複したページ付	30

#2.17.1.1.13	左右両側からのページ付	30
#2.17.1.2	複数の冊子から成る資料	30
#2.17.1.2A	刊行が完結した逐次刊行物	31
#2.17.1.2A	刊行が完結した逐次刊行物 別法	31
#2.17.1.2.1	下位ユニット	31
#2.17.1.2.2	刊行が完結していない資料、全体の冊数が不明な資料	31
#2.17.1.2.2	刊行が完結していない資料、全体の冊数が不明な資料 別法	31
#2.17.1.3	加除式資料	32
#2.17.1.3	加除式資料 別法	32
#2.17.1.4	シートまたはカードから成る資料	32
#2.17.1.4A	初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）	33
#2.17.1.5	ポートフォリオまたはケースに収納されている場合	33
#2.17.1.5	ポートフォリオまたはケースに収納されている場合 任意追加	33
#2.17.2	楽譜の数量	33
#2.17.2	楽譜の数量 別法	34
#2.17.2.1	複数の形式の楽譜から成る場合	35
#2.17.2.1	複数の形式の楽譜から成る場合 別法	35
#2.17.3	地図資料の数量	35
#2.17.3	地図資料の数量 別法	36
#2.17.3.1	地図帳	37
#2.17.3.1	地図帳 別法	37
#2.17.3.2	シートが複数の図から成る場合	38
#2.17.3.2	シートが複数の図から成る場合 別法	38
#2.17.3.3	複数の部分図から成る場合	38
#2.17.3.3	複数の部分図から成る場合 別法	38
#2.17.4	静止画の数量	38
#2.17.4	静止画の数量 別法	40
#2.17.4.1	セット	40
#2.17.4.1	セット 任意追加	41
#2.17.4.2	静止画の数とキャリア数が一致しない場合等	41
#2.17.4.2	静止画の数とキャリア数が一致しない場合等 別法	41
#2.17.5	三次元資料の数量	41
#2.17.5.1	下位ユニット	42
#2.18	大きさ	42
#2.18.0	通則	43
#2.18.0.1	記録の範囲	43

#2.18.0.1.1	エレメント・サブタイプ (各種の資料)	43
#2.18.0.2	記録の方法	43
#2.18.0.2	記録の方法 別法	43
#2.18.0.2.1	各キャリア種別の大きさ	43
#2.18.0.2.1A	冊子	43
#2.18.0.2.1A	冊子 任意追加 1	44
#2.18.0.2.1A	冊子 任意追加 2	44
#2.18.0.2.1A	冊子 任意省略	44
#2.18.0.2.1B	カード等	44
#2.18.0.2.1C	シート	44
#2.18.0.2.1D	フリップチャート	44
#2.18.0.2.1E	巻物	44
#2.18.0.2.1E	巻物 別法	45
#2.18.0.2.1F	オブジェクト	45
#2.18.0.2.1F	オブジェクト 任意追加	46
#2.18.0.2.1G	カセット	46
#2.18.0.2.1G	カセット 別法	47
#2.18.0.2.1H	カートリッジ	48
#2.18.0.2.1H	カートリッジ 別法	48
#2.18.0.2.1I	ディスク	49
#2.18.0.2.1J	リール	49
#2.18.0.2.1J	リール 任意省略	50
#2.18.0.2.1K	ロール	50
#2.18.0.2.1L	スライド	50
#2.18.0.2.1M	トランスペアレンシー	50
#2.18.0.2.1N	フィルムストリップ、フィルムスリップ	50
#2.18.0.2.1O	マイクロオペーク、マイクロフィッシュ	51
#2.18.0.2.2	容器に収納された記述対象	51
#2.18.0.2.3	複数のキャリアから成る体現形	51
#2.18.0.2.3	複数のキャリアから成る体現形 任意省略	52
#2.18.0.2.4	複数の容器に収納された記述対象	52
#2.18.0.2.5	変化	52
<#2.18.1～#2.18.2	各種の資料の大きさ>	52
#2.18.1	地図等の大きさ	52
#2.18.1	地図等の大きさ 別法	53
#2.18.1.1	計測の方法	53

#2.18.1.1	計測の方法 任意追加.....	53
#2.18.1.2	大きさの異なる複数のシートから成る場合.....	53
#2.18.1.2	大きさの異なる複数のシートから成る場合 別法.....	54
#2.18.1.3	複数の部分図から成る場合.....	54
#2.18.1.4	折りたたまれるシートの場合.....	54
#2.18.2	静止画の大きさ.....	55
#2.18.2	静止画の大きさ 別法.....	55
#2.18.2.1	計測の方法.....	55
#2.19	基底材.....	56
#2.19.0	通則.....	56
#2.19.0.1	記録の範囲.....	56
#2.19.0.2	記録の方法.....	56
#2.19.0.3	基底材の詳細.....	58
#2.20	付加材.....	58
#2.20.0	通則.....	58
#2.20.0.1	記録の範囲.....	58
#2.20.0.2	記録の方法.....	58
#2.20.0.3	付加材の詳細.....	58
#2.20.1	マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤.....	58
#2.20.1.1	マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤の詳細.....	59
#2.21	マウント.....	59
#2.21.0	通則.....	59
#2.21.0.1	記録の範囲.....	59
#2.21.0.2	記録の方法.....	59
#2.21.0.3	マウントの詳細.....	59
#2.22	制作手段.....	59
#2.22.0	通則.....	59
#2.22.0.1	記録の範囲.....	59
#2.22.0.2	記録の方法.....	59
#2.22.0.2A	書写資料.....	60
#2.22.0.3	制作手段の詳細.....	61
#2.23	世代.....	61
#2.23.0	通則.....	61
#2.23.0.1	記録の範囲.....	61
#2.23.0.2	記録の方法.....	61
#2.23.0.3	世代の詳細.....	62

#2.24	レイアウト	62
#2.24.0	通則	63
#2.24.0.1	記録の範囲	63
#2.24.0.2	記録の方法	63
#2.24.0.3	レイアウトの詳細	64
#2.25	書型・判型	64
#2.25.0	通則	64
#2.25.0.1	記録の範囲	64
#2.25.0.2	記録の方法	64
#2.25.0.3	書型・判型の詳細	65
#2.26	フォント・サイズ	65
#2.26.0	通則	65
#2.26.0.1	記録の範囲	65
#2.26.0.2	記録の方法	65
#2.26.0.2	記録の方法 任意追加	65
#2.26.0.3	フォント・サイズの詳細	65
#2.27	極性	65
#2.27.0	通則	66
#2.27.0.1	記録の範囲	66
#2.27.0.2	記録の方法	66
#2.27.0.3	極性の詳細	66
#2.28	縮率	66
#2.28.0	通則	66
#2.28.0.1	記録の範囲	66
#2.28.0.2	記録の方法	66
#2.28.1	縮率を示す語句	66
#2.28.2	縮率を示す語句の詳細	67
#2.29	録音の特性	67
#2.29.0	通則	67
#2.29.0.1	記録の範囲	67
#2.29.0.2	記録の方法	67
#2.29.0.2	記録の方法 任意追加	67
#2.29.0.3	録音の特性の詳細	67
#2.29.1	録音の方式	67
#2.29.1.1	録音の方式の詳細	68
#2.29.2	録音の手段	68

#2.29.2.1	録音の手段の詳細	68
#2.29.3	再生速度	68
#2.29.3.1	再生速度の詳細	68
#2.29.4	音溝の特性	69
#2.29.4A	アナログ・ディスク	69
#2.29.4A	アナログ・ディスク 任意追加	69
#2.29.4B	アナログ・シリンダー	69
#2.29.4.1	音溝の特性の詳細	69
#2.29.5	フィルムのトラック構成	69
#2.29.5.1	フィルムのトラック構成の詳細	70
#2.29.6	テープのトラック構成	70
#2.29.6.1	テープのトラック構成の詳細	70
#2.29.7	再生チャンネル	70
#2.29.7.1	再生チャンネルの詳細	70
#2.29.8	特定の再生仕様	71
#2.29.8.1	特定の再生仕様の詳細	71
#2.30	映画フィルムの映写特性	71
#2.30.0	通則	71
#2.30.0.1	記録の範囲	71
#2.30.0.2	記録の方法	71
#2.30.0.3	映画フィルムの映写特性の詳細	71
#2.30.1	映写方式	72
#2.30.1.1	映写方式の詳細	72
#2.30.2	映写速度	72
#2.30.2.1	映写速度の詳細	72
#2.31	ビデオの特性	72
#2.31.0	通則	73
#2.31.0.1	記録の範囲	73
#2.31.0.2	記録の方法	73
#2.31.0.3	ビデオの特性の詳細	73
#2.31.1	ビデオ・フォーマット	73
#2.31.1.1	ビデオ・フォーマットの詳細	74
#2.31.2	テレビ放送の標準方式	74
#2.31.2.1	テレビ放送の標準方式の詳細	74
#2.32	デジタル・ファイルの特性	74
#2.32.0	通則	74

#2.32.0.1	記録の範囲	74
#2.32.0.2	記録の方法	74
#2.32.0.3	デジタル・ファイルの特性の詳細	75
#2.32.1	ファイル種別	75
#2.32.1.1	ファイル種別の詳細	75
#2.32.2	デジタル・コンテンツ・フォーマット	75
#2.32.2.1	デジタル・コンテンツ・フォーマットの詳細	76
#2.32.3	ファイル・サイズ	76
#2.32.4	解像度	76
#2.32.5	リージョン・コード	76
#2.32.6	ビットレート	76
#2.32.7	地図資料のデジタル表現	76
#2.32.7.1	地図資料のデジタル表現の詳細	77
#2.32.7.2	地図データ種別	77
#2.32.7.2.1	地図データ種別の詳細	77
#2.33	装置・システム要件	77
#2.33.0	通則	77
#2.33.0.1	記録の範囲	77
#2.33.0.2	記録の方法	78
#2.33.0.2	記録の方法 別法	78

<#2.14～#2.33 キャリアに関する情報>

#2.14 キャリアに関する情報

#2.14.0 通則

#2.14.0.1 記録の目的

キャリアに関する情報は、記述対象を物理的側面から識別する上で重要である。利用者のニーズに合致する体現形を選択し、利用するために使用される。また、記述対象の管理・保全にも重要である。

#2.14.0.2 記録の範囲

キャリアに関する情報は、記述対象の物理的側面に関する情報である。可視のものだけではなく、不可視のものもある。

キャリアに関する情報には、次のエレメントがある。

- a) 機器種別（参照：#2.15 を見よ。）
- b) キャリア種別（参照：#2.16 を見よ。）
- c) 数量（参照：#2.17 を見よ。）
- d) 大きさ（参照：#2.18 を見よ。）
- e) 基底材（参照：#2.19 を見よ。）
- f) 付加材（参照：#2.20 を見よ。）
- g) マウント（参照：#2.21 を見よ。）
- h) 制作手段（参照：#2.22 を見よ。）
- i) 世代（参照：#2.23 を見よ。）
- j) レイアウト（参照：#2.24 を見よ。）
- k) 書型・判型（参照：#2.25 を見よ。）
- l) フォント・サイズ（参照：#2.26 を見よ。）
- m) 極性（参照：#2.27 を見よ。）
- n) 縮率（参照：#2.28 を見よ。）
- o) 録音の特性（参照：#2.29 を見よ。）
- p) 映画フィルムの映写特性（参照：#2.30 を見よ。）
- q) ビデオの特性（参照：#2.31 を見よ。）
- r) デジタル・ファイルの特性（参照：#2.32 を見よ。）
- s) 装置・システム要件（参照：#2.33 を見よ。）

これらのうち、キャリア種別および数量は、コア・エレメントである。

機器種別、キャリア種別、数量は、すべての種類のキャリアについて記録する。大きさは、オンライン資料を除くすべての種類のキャリアについて記録する。その他のエレメントは、基本的に記述対象のキャリアが該当する場合に限って記録する。

#2.14.0.3 情報源

キャリアに関する情報は、資料自体に基づいて記録する。さらに識別または選択に重要

な情報がある場合は、資料外のどの情報源に基づいて記録してもよい。

(参照: 資料自体の範囲については、#2.0.2.1 を見よ。)

#2.14.0.4 記録の方法

キャリアに関する情報は、#1.9c)～e)に従って記録する。

ある著作に対して、相互に異なるキャリアによって体现形が複数存在することがある。その場合は、記述対象のキャリアについて記録する。

(参照: 異なるキャリアとの関連の記録については、#43.3 を見よ。)

#2.14.0.4.1 複数のキャリア種別から成る体现形

複数のキャリア種別から成る体现形を包括的に記述する場合は、記述対象の特徴と記録の必要に応じて、次のいずれかの方法を適用する。

(参照: コレクションの数量については、#2.17.0.2.6 を見よ。)

(参照: 付属資料のキャリアに関する情報については、#43.3 を見よ。)

- a) キャリア種別ごとに、キャリア種別と数量を記録し、必要に応じてその他のエレメントも対応させて記録する。

(参照: #2.16～#2.33 を見よ。)

【キャリア種別】	コンピュータ・ディスク
【数量】	コンピュータ・ディスク 1 枚
【キャリア種別】	オーディオ・ディスク
【数量】	オーディオ・ディスク 1 枚
【キャリア種別】	冊子
【数量】	2 冊

(コンピュータ・ディスク、オーディオ・ディスク各 1 枚と冊子 2 冊から成る記述対象について、キャリア種別と数量のみを記録する場合)

【キャリア種別】	コンピュータ・ディスク
【数量】	コンピュータ・ディスク 1 枚
【大きさ】	12 cm
【ファイル種別】	プログラム・ファイル
【キャリア種別】	オーディオ・ディスク
【数量】	オーディオ・ディスク 1 枚
【大きさ】	12 cm
【デジタル・コンテンツ・フォーマット】	

CD audio

【キャリア種別】	冊子
【数量】	2 冊
【大きさ】	27 cm

(コンピュータ・ディスク、オーディオ・ディスク各 1 枚と冊子 2 冊から成る記

- 述対象について、キャリア種別、数量、その他のエレメントを記録する場合)
- b) 多くの異なるキャリア種別から成る体現形について、主なキャリア種別のみを記録し、包括的な表現で数量を記録する。

(参照: #2.16.0.2.1 別法、#2.17.0.2.3 を見よ。)

【キャリア種別】 シート
【数量】 各種資料 25 個

(シートをはじめ、様々な種類の 25 個のパーツから成る組み合わせ資料) 識別または選択に重要な場合は、構成の詳細を注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.1 を見よ。)

#2.14.0.4.1 複数のキャリア種別から成る体現形 任意追加

記述対象が容器に収納されているときは、容器の種類と大きさも記録する。

(参照: #2.18.0.2.2 を見よ。)

【キャリア種別】 コンピュータ・ディスク
【数量】 コンピュータ・ディスク 1 枚
【大きさ】 12 cm
【ファイル種別】 プログラム・ファイル
【キャリア種別】 オーディオ・ディスク
【数量】 オーディオ・ディスク 1 枚
【大きさ】 12 cm
【デジタル・コンテンツ・フォーマット】

CD audio

【キャリア種別】 冊子
【数量】 2 冊
【大きさ】 27 cm
【大きさ】 箱 29 × 20 × 11 cm

(コンピュータ・ディスク、オーディオ・ディスク各 1 枚と冊子 2 冊が箱に収納された記述対象について、キャリア種別、数量、その他のエレメント、容器に関する情報を記録する場合)

#2.14.0.5 複製

複製については、原資料のキャリアではなく、複製自体のキャリアについて記録する。原資料のキャリアについては、関連する体現形のキャリアに関する記録として扱う。

(参照: #43.3 を見よ。)

#2.14.0.6 変化

複数巻単行資料、逐次刊行物または更新資料においては、キャリアに変化が生じることがある。

複数巻単行資料または逐次刊行物の刊行途中で次のいずれかの変化が生じた場合は、体

現形に対する新規の記述を作成する。

- a) 機器種別が変化した場合
- b) 逐次刊行物のキャリア種別が、他の種別からオンライン資料に、またはオンライン資料から他の種別に変化した場合

その他の変化が生じた場合は、次のように扱う。

- c) 大きさが変化した場合は、#2.18.0.2.5 に従って記録する。
- d) キャリア種別や#2.19～#2.33 に規定するエレメントに変化が生じた場合は、各エレメントの規定に従って変化後の情報を追加して記録する。記述対象の識別または選択に重要な場合は、変化に関する情報を注記として記録する。

(参照: #2.42.3.2.1、#2.42.3.2.1 任意省略を見よ。)

更新資料の刊行途中で機器種別が変化した場合は、体現形に対する新規の記述を作成する。大きさが変化した場合は、#2.18.0.2.5 に従って記録する。キャリア種別や#2.19～#2.33 に規定するエレメントに変化が生じた場合は、最新のイテレーションの情報に改める。記述対象の識別または選択に重要な場合は、変化に関する情報を注記として記録する。

(参照: #2.42.3.2.2 を見よ。)

<#2.15～#2.33 キャリアに関する情報のエレメント>

#2.15 機器種別

機器種別は、エレメントである。

#2.15.0 通則

#2.15.0.1 記録の範囲

記述対象の内容を利用（表示、再生、実行など）するために必要な機器の種類を示す用語を、機器種別として記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.15.0.2 記録の方法

機器種別は、キャリア種別と組み合わせて記録する。

(参照: #2.16.0.2を見よ。)

機器種別として記録する用語は、表2.15.0.2から選択する。目録用言語として英語を用いる場合は、表中の英語の用語を用いる。

オーディオ

(音声再生機器が必要な場合)

機器不用

(図書など)

表 2.15.0.2 機器種別の用語

映写 projected

<p>動画または静止画を保持し、映画フィルム・プロジェクター、スライド・プロジェクター、OHP などの映写機器の使用を想定した体现形に適用する。二次元、三次元いずれの画像も該当する。</p>
<p>オーディオ audio</p> <p>録音音声を保持するなどし、ターンテーブル、オーディオカセット・プレーヤー、CD プレーヤー、MP3 プレーヤーなどの再生機器の使用を想定した体现形に適用する。アナログ方式、デジタル方式いずれの音声も該当する。</p>
<p>顕微鏡 microscopic</p> <p>肉眼では見えない微小な対象を見るために、顕微鏡などの機器の使用を想定した体现形に適用する。</p>
<p>コンピュータ computer</p> <p>電子ファイルを保持し、コンピュータの使用を想定した体现形に適用する。コンピュータ・テープ、コンピュータ・ディスクなどにローカル・アクセスする場合と、ファイル・サーバを通じてリモート・アクセスする場合のいずれも該当する。</p>
<p>ビデオ video</p> <p>動画または静止画を保持し、ビデオカセット・プレーヤー、DVD プレーヤーなどの再生機器の使用を想定した体现形に適用する。アナログ方式、デジタル方式いずれの画像も該当する。二次元、三次元いずれの画像も該当する。</p>
<p>マイクロ microform</p> <p>閲覧するために拡大を必要とするマイクロ画像を保持し、マイクロフィルム・リーダー、マイクロフィッシュ・リーダーなどの機器の使用を想定した体现形に適用する。透明、不透明いずれの媒体も該当する。</p>
<p>立体視 stereographic</p> <p>三次元効果を与えるように、対をなす静止画によって構成され、ステレオスコープ、立体視ビューワなどの機器の使用を想定した体现形に適用する。</p>
<p>機器不用 unmediated</p> <p>機器を使用せず、人間の感覚器官を通して直接認識することを想定した体现形に適用する。印刷、手描き、点字などによって作製された資料、彫刻、模型などの三次元資料が該当する。</p>

該当する機器種別が存在しない場合は、「その他」または「other」と記録する。

該当する機器種別が容易に判明しない場合は、「不明」または「unspecified」と記録する。

#2.15.0.2.1 複数の機器種別

複数の機器種別が該当する場合は、それらをすべて記録する。

#2.15.0.2.1 複数の機器種別 別法

*複数の機器種別が該当する場合は、次のいずれかの機器種別のみを記録する。

a) 記述対象の最も重要な構成要素が該当する機器種別

- b) 記述対象の実質的な構成要素（最も重要な構成要素がある場合は、これを含む）が該当するそれぞれの機器種別*

#2.16 キャリア種別

キャリア種別は、エレメントである。

キャリア種別は、コア・エレメントである。

#2.16.0 通則

#2.16.0.1 記録の範囲

記述対象の内容を記録した媒体およびその形状を示す用語を、キャリア種別として記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.16.0.2 記録の方法

キャリア種別として記録する用語は、表2.16.0.2から選択する。目録用言語として英語を用いる場合は、表中の英語の用語を用いる。

冊子

(図書など)

オーディオ・ディスク

(音楽 CD など)

表 2.16.0.2 キャリア種別の用語

対応する機器種別*	キャリア種別
映写 projected	トランスペアレンシー overhead transparency
	スライド slide
	フィルム・カセット film cassette
	フィルム・カートリッジ film cartridge
	フィルムストリップ filmstrip
	フィルムストリップ・カートリッジ filmstrip cartridge
	フィルムスリップ filmslip
	フィルム・リール film reel
	フィルム・ロール film roll
オーディオ audio	オーディオカセット audiocassette
	オーディオ・カートリッジ audio cartridge
	オーディオ・シリンダー audio cylinder
	オーディオ・ディスク audio disc
	オーディオテープ・リール audiotape reel
	オーディオ・ロール audio roll
	サウンドトラック・リール sound-track reel

顕微鏡 microscopic	顕微鏡スライド microscope slide
コンピュータ computer	コンピュータ・カード computer card
	コンピュータ・チップ・カートリッジ computer chip cartridge
	コンピュータ・ディスク computer disc
	コンピュータ・ディスク・カートリッジ computer disc cartridge
	コンピュータ・テープ・カセット computer tape cassette
	コンピュータ・テープ・カートリッジ computer tape cartridge
	コンピュータ・テープ・リール computer tape reel
	オンライン資料 online resource
ビデオ video	ビデオカセット videocassette
	ビデオ・カートリッジ video cartridge
	ビデオディスク videodisc
	ビデオテープ・リール videotape reel
マイクロ microform	アパーチュア・カード aperture card
	マイクロオパーク microopaque
	マイクロフィッシュ microfiche
	マイクロフィッシュ・カセット microfiche cassette
	マイクロフィルム・カセット microfilm cassette
	マイクロフィルム・カートリッジ microfilm cartridge
	マイクロフィルム・スリップ microfilm slip
	マイクロフィルム・リール microfilm reel
	マイクロフィルム・ロール microfilm roll
立体視 stereographic	立体視カード stereograph card
	立体視ディスク stereograph disc
機器不用 unmediated	オブジェクト object
	カード card
	冊子 volume
	シート sheet
	フリップチャート flipchart
	巻物 roll

該当するキャリア種別が存在しない場合は、「その他」または「other」と記録する。

該当するキャリア種別が容易に判明しない場合は、「不明」または「unspecified」と記録する。

*表 2.16.0.2 は機器種別とキャリア種別の一般的な対応関係を示したものであり、例外的に、この表に記載されていなくても適切な用語の選択が必要となる場合がある。

【機器種別】 オーディオ

【キャリア種別】 冊子

(スキャントークリーダーで再生されるバーコードが印刷された冊子体資料)

#2.16.0.2.1 複数のキャリア種別

複数のキャリア種別が該当する場合は、それらをすべて記録する。

#2.16.0.2.1 複数のキャリア種別 別法

*複数のキャリア種別が該当する場合は、次のいずれかのキャリア種別のみを記録する。

- a) 記述対象の最も重要な構成要素が該当するキャリア種別
- b) 記述対象の実質的な構成要素（最も重要な構成要素がある場合は、これを含む）が該当するそれぞれのキャリア種別*

#2.17 数量

数量は、エレメントである。

数量は、資料が完結している場合、または総数が判明している場合は、コア・エレメントである。

#2.17.0 通則**#2.17.0.1 記録の範囲**

記述対象のユニット数を、キャリアの種類を示す語とともに、数量として記録する。ユニット数に代えてまたはユニット数に加えて、下位ユニット数を記録することがある。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

(参照：所要時間については、#5.22 を見よ。)

#2.17.0.2 記録の方法

表 2.16.0.2 の適切なキャリア種別の用語に続けて、ユニット数を記録する。単位を示す助数詞は、キャリア種別に応じて表 2.17.0.2 の語を用いる。

目録用言語として英語を用いる場合は、ユニット数を記録し、キャリア種別の用語を付加する。

印刷または手書きされている場合、テキストは#2.17.1、楽譜は#2.17.2、地図（三次元の資料を含む）は#2.17.3 に従って記録する。静止画は#2.17.4、三次元資料は#2.17.5 に従って記録する。

スライド 24 枚

フィルム・リール 1 巻

オーディオカセット 3 巻

オーディオ・ディスク 2 枚

コンピュータ・ディスク 5 枚

コンピュータ・ディスク・カートリッジ 1 個

ビデオディスク 1 枚

アパーチュア・カード 25 枚
 マイクロフィルム・リール 1 巻
 カード 4 枚
 24 slides
 1 film reel

オンライン資料の場合は、「オンライン資料 1 件」または「1 online resource」と記録する。

(参照: ファイル・サイズについては、#2.32.3 を見よ。)

オンライン資料 1 件

表 2.17.0.2 数量に用いる助数詞

機器種別	キャリア種別	用いる助数詞
映写	トランスペアレンシー	枚
	スライド	枚
	フィルム・カセット	巻
	フィルム・カートリッジ	巻
	フィルムストリップ	巻
	フィルムストリップ・カートリッジ	巻
	フィルムスリップ	枚
	フィルム・リール	巻
	フィルム・ロール	巻
オーディオ	オーディオカセット	巻
	オーディオ・カートリッジ	巻
	オーディオ・シリンダー	本
	オーディオ・ディスク	枚
	オーディオテープ・リール	巻
	オーディオ・ロール	巻
	サウンドトラック・リール	巻
顕微鏡	顕微鏡スライド	枚
コンピュータ	コンピュータ・カード	枚
	コンピュータ・チップ・カートリッジ	個
	コンピュータ・ディスク	枚
	コンピュータ・ディスク・カートリッジ	個または枚
	コンピュータ・テープ・カセット	巻
	コンピュータ・テープ・カートリッジ	巻

	コンピュータ・テープ・リール	巻
	オンライン資料	件
ビデオ	ビデオカセット	巻
	ビデオ・カートリッジ	個または枚
	ビデオディスク	枚
	ビデオテープ・リール	巻
マイクロ	アパーチュア・カード	枚
	マイクロオペク	枚
	マイクロフィッシュ	枚
	マイクロフィッシュ・カセット	巻
	マイクロフィルム・カセット	巻
	マイクロフィルム・カートリッジ	巻
	マイクロフィルム・スリップ	枚
	マイクロフィルム・リール	巻
	マイクロフィルム・ロール	巻
立体視	立体視カード	枚
	立体視ディスク	枚
機器不用	オブジェクト	個
	カード	枚
	冊子	冊
	シート	枚
	フリップチャート	組
	巻物	巻または軸

記述対象のキャリアの種類を示す適切な用語が表 2.16.0.2 にない場合、または必要に応じて、データ作成機関がキャリアの種類を示す簡略な用語を定め、その用語と適切な助数詞を用いて記録する。

音帯 1 本

(記述対象は、フィルムレコード)

DVD-ROM 1 枚

(キャリア種別は「コンピュータ・ディスク」)

VHS 1 巻

(キャリア種別は「ビデオカセット」)

フレキシブル・ディスク 1 枚

(キャリア種別は「コンピュータ・ディスク・カートリッジ」)

UMD 1 枚

(キャリア種別は「コンピュータ・ディスク・カートリッジ」)

VHD 1 枚

(キャリア種別は「ビデオ・カートリッジ」)

#2.17.0.2A 和古書・漢籍

和古書・漢籍については、数量の単位として「冊」以外の単位も使用できる。

卷子本および掛物には、「巻」ではなく「軸」を用いる。折本には、「帖」を用いる。一枚ものには「枚」を用いる。量ものには、「枚」ではなく「舗」を用いる。

現在のキャリアについて記録し、原装のキャリアについては、必要に応じて注記として記録する。合冊または分冊されて原装の冊数が変化している場合は、必要に応じてその詳細を注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.6 を見よ。)

#2.17.0.2.1 下位ユニット

識別または選択に重要な場合に、容易に判明するときは、キャリアの種類を示す用語とユニット数に続けて、下位ユニット数を丸がっこに入れて付加する。表 2.17.0.2.1 に挙げたキャリア種別に該当する場合は、対応する下位ユニットの数量に付加する語を用いる。

(参照: キャリア種別が「冊子」の場合は、#2.17.1.2.1 を見よ。)

トランスペアレンシー 1 枚 (5 オーバーレイ)

立体視ディスク 1 枚 (7 フレーム)

1 overhead transparency (5 overlays)

1 stereograph disc (7 pairs of frames)

フィルムストリップまたはフィルムスリップは、シングル・フレーム、ダブル・フレームの別とともにフレームの数を記録する。

フィルムストリップ 1 巻 (ダブル・フレーム 56 フレーム)

1 filmstrip (10 double frames)

表 2.17.0.2.1 下位ユニットの数量に付加する語

キャリア種別	下位ユニットの数量に付加する語
トランスペアレンシー overhead transparency	オーバーレイ overlay
フィルムストリップ filmstrip	フレーム frame
フィルムストリップ・カートリッジ filmstrip cartridge	フレーム frame
フィルムスリップ filmslip	フレーム frame
ビデオディスク videodisc *	フレーム frame
立体視カード stereograph card	フレーム frame
立体視ディスク stereograph disc	フレーム frame
フリップチャート flipchart	枚 sheet

*静止画のみで構成されている場合に使用する。

#2.17.0.2.1A コンピュータ・ディスク等

記述対象の機器種別が「コンピュータ」の場合に、収録されているファイルが印刷資料、書写資料等に相当し、内容がテキスト、楽譜、地図、静止画のいずれかで構成される場合は、キャリアの種類を示す用語とユニット数に続けて、#2.17.1～#2.17.4に従って、下位ユニット数を記録する。

コンピュータ・ディスク 1枚 (地図 150図)

コンピュータ・ディスク 1枚 (絵はがき 10点)

オンライン資料 1件 (275 p)

オンライン資料 1件 (ヴォーカル・スコア 1部 (150 p))

1 computer disc (184 remote-sensing images)

1 online resource (68 pages)

上記に該当しない場合は、ファイル種別を示す用語に続けて、ファイル数に「ファイル」の語を付加して記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、ファイル数にファイル種別を示す用語を付加して記録する。ファイル種別を示す用語は、表 2.32.1 の用語を使用して記録する。

コンピュータ・ディスク 1枚 (オーディオ・ファイル 1ファイル, ビデオ・ファイル 3ファイル)

1 computer disc (1 audio file, 3 video files)

下位ユニット数が容易に判明せず、識別または選択に重要な場合は、その詳細を注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.9 を見よ。)

#2.17.0.2.1A コンピュータ・ディスク等 任意追加

記述対象がプログラム・ファイルおよび (または) データ・ファイルから成る場合は、ファイル数に加えて、必要に応じてステップ数、レコード数も記録する。

コンピュータ・ディスク 1枚 (2ファイル: 800, 1250レコード)

#2.17.0.2.1B マイクロフィッシュ、マイクロフィルム

記述対象がマイクロフィッシュまたはマイクロフィルムの場合に、印刷資料、書写資料等に相当し、内容がテキスト、楽譜、地図、静止画のいずれかで構成される場合は、キャリアの種類を示す用語とユニット数に続けて、#2.17.1～#2.17.4に従って、下位ユニット数を記録する。

マイクロフィルム・リール 1巻 (255 p)

マイクロフィッシュ 1枚 (スコア 1部 (35 p))

マイクロフィッシュ 1枚 (地図 2図)

マイクロフィッシュ 1枚 (ポスター 2点)

1 microfilm reel (255 pages)

1 microfiche (1 score (35 pages))

上記に該当しない場合は、フレーム数に「フレーム」または「frames」の語を付加して記録する。

マイクロフィッシュ 1 枚 (120 フレーム)

1 microfiche (120 frames)

#2.17.0.2.1.1 複数のユニットから成る場合

複数のユニットから成り、各ユニットが同数の下位ユニットで構成される場合は、「各」の語に続けて、1 ユニット当たりの下位ユニット数を記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「each」の語を付加して記録する。

フィルムストリップ 8 巻 (各ダブル・フレーム 56 フレーム)

8 filmstrips (56 double frames each)

複数のユニットから成り、各ユニットの下位ユニット数が異なる場合は、下位ユニット数を合計して記録する。

マイクロフィッシュ 3 枚 (135 フレーム)

(1 枚目と 2 枚目が各 60 フレーム、3 枚目が 15 フレームから成る資料)

#2.17.0.2.2 正確なユニット数が不明な場合

正確な数が容易に判明しない場合は、「約」または「approximately」の語に続けて、概数を記録する。

スライド 約 600 枚

approximately 600 slides

コンピュータ・ディスク 1 枚 (地図 約 100 図)

#2.17.0.2.2 正確なユニット数が不明な場合 任意省略

ユニット数が容易に判明しない場合は、キャリアの種類を示す用語と単位を示す助数詞のみを記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、キャリアの種類を示す用語のみを記録する。

(参照: キャリア種別が「冊子」の場合は、#2.17.1.2.2 を見よ。)

スライド 枚

slides

#2.17.0.2.3 多種類のキャリアから成る場合

多種類のキャリアから成り、種類ごとの記録が困難な場合は、「各種資料」または「various pieces」の語を用いて、キャリア数を包括的に記録する。

(参照: 複数のキャリア種別から成る体現形については、#2.14.0.4.1 を見よ。)

各種資料 25 個

25 various pieces

識別または選択に重要な場合は、数量の詳細を注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.1 を見よ。)

#2.17.0.2.3 多種類のキャリアから成る場合 任意省略

キャリア数または概数が容易に判明しない場合は、数を省略する。

各種資料

various pieces

#2.17.0.2.4 刊行が完結していない資料、全体のユニット数が不明な資料

刊行が完結していない資料、または完結していても全体のユニット数が不明な資料を包括的に記述する場合は、キャリアの種類を示す用語と単位を示す助数詞のみを記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、キャリアの種類を示す用語のみを記録する。ユニット数は、刊行が完結し、全体のユニット数が明らかになってから記録する。

(参照: キャリア種別が「冊子」の場合は、#2.17.1.2.2 を見よ。)

コンピュータ・ディスク 枚

computer discs

複数のユニットから成る予定の資料がまだすべて刊行されていない場合に、今後刊行されないことが明らかとなるときは、刊行済のユニット数を記録し、これ以上刊行されないことを注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.2 を見よ。)

#2.17.0.2.4 刊行が完結していない資料、全体のユニット数が不明な資料 別法

刊行が完結していない資料、または完結していても全体のユニット数が不明な資料を包括的に記述する場合は、数量を記録しない。ユニット数は、刊行が完結し、全体のユニット数が明らかになってから、キャリアの種類を示す用語と単位を示す助数詞を用いて記録する。

(参照: キャリア種別が「冊子」の場合は、#2.17.1.2.2 別法を見よ。)

複数のユニットから成る予定の資料がまだすべて刊行されていない場合に、今後刊行されないことが明らかとなるときは、刊行済のユニット数を記録し、これ以上刊行されないことを注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.2 を見よ。)

#2.17.0.2.5 同一内容の複数セットから成る場合

同一内容の複数セットから成る場合は、「同一」の語を用いて記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「identical」の語を用いて記録する。

同一スライド 30 枚

(同一のスライド 30 枚から成る資料)

同一セット 10 組 (スライド 各 12 枚)

(1 セットがスライド 12 枚から成り、10 セット同一のものである資料 (計 120 枚))

30 identical slides

10 identical sets of 12 slides

#2.17.0.2.6 コレクションを包括的に記述する場合

コレクションを包括的に記述する場合は、必要に応じて次のいずれかの方法で数量を記録する。

- a) 記述対象、容器、冊子のいずれかの数を記録する。

235 個

約 600 個

5 箱

20 冊

235 items

5 boxes

20 volumes

- b) 記述対象の収納に必要なスペースを記録する。

5 m

(書架上で必要となる幅を記録)

1 m³

20 cm³

- c) 記述対象の種類ごとに、それを示す用語とユニットの数を記録する。

写真 約 150 枚

製図 50 枚

模型 6 点

(写真、製図、模型の 3 種から成るコレクション)

#2.17.0.2.6 コレクションを包括的に記述する場合 任意追加 1

#2.17.0.2.6a)に従って、容器の数を記録した場合は、それに続けて、記述対象を示す用語と数を丸がっこに入れて付加する。

3 箱 (資料 235 個)

3 boxes (235 items)

#2.17.0.2.6 コレクションを包括的に記述する場合 任意追加 2

#2.17.0.2.6b)に従って、記述対象の収納に必要なスペースを記録した場合は、それに続けて、記述対象、容器、冊子のいずれかの数を、丸がっこに入れて付加する。

5 m (12 箱)

5 m (12 boxes)

#2.17.0.2.7 資料の部分を分析的に記述する場合

資料の部分を分析的に記述する場合は、必要に応じて次のいずれかの方法で数量を記録する。

- a) #2.17.0.2～#2.17.0.2.4 別法に従って、記述対象となる部分の数量を記録する。

スライド 10 枚

238 p

b) 記述対象となる部分の、資料全体の中での位置付けを示す順序付け等を記録する。

p 152-215

(参照: #2.17.1.1.8 を見よ。)

<#2.17.1～#2.17.5 各種の資料の数量>

#2.17.1 テキストの数量

テキストから成る印刷資料または書写資料は、挿絵の有無によらず、#2.17.1.1～#2.17.1.5 任意追加に従って、テキストの数量を記録する。

(参照: 機器種別が「コンピュータ」の場合は、#2.17.0.2.1A、#2.17.0.2.1A 任意追加を見よ。マイクロフィッシュまたはマイクロフィルムの場合は、#2.17.0.2.1B を見よ。)

#2.17.1.1 冊子 1 冊の資料

冊子 1 冊の資料は、キャリアの種類を示す用語および冊数は記録せず、ページ数、丁数、枚数、欄数のみを記録する。逐次刊行物は、#2.17.1.2A または#2.17.1.2A 別法に従って記録する。

#2.17.1.1.1 ページ数等

ページ数、丁数、枚数、欄数を、それぞれ「p」、「丁」、「枚」、「欄」の語を付加して記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、ページ数には「pages」、丁数または枚数には「leaves」、欄数には「columns」の語を用いる。

48 p

30 枚

29 丁

56 欄

48 pages

30 leaves

56 columns

#2.17.1.1.1 ページ数等 別法

ページ数、丁数、枚数、欄数を、それぞれ「ページ」、「丁」、「枚」、「欄」の語を付加して記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、ページ数には「pages」、丁数または枚数には「leaves」、欄数には「columns」の語を用いる。

48 ページ

30 枚

29 丁

56 欄

48 pages

30 leaves

56 columns

#2.17.1.1.1A 初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）

表示されているページ付と形式で、それぞれの一連のページ付を記録する。資料が両面に印刷されているが、ページ付が片面にある場合は、丁数または枚数を「丁」または「枚」の語を付加して記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「leaves」の語を用いる。

90 枚

90 leaves

識別または選択に重要な場合は、ページ付、白紙の紙葉、またはその他の形態的事項についてさらに詳細な情報を記録する。簡略に記録できない場合は、注記として記録する。

（参照：#2.42.1.2.7 を見よ。）

#2.17.1.1.2 数字等

表示されたページ付の最終数を記録する。語句を用いたページ付の場合は、数字に置き換えて記録する。漢数字は、アラビア数字に置き換えて記録する。

238 p

xcvii p

30 p

（「thirty p」とはしない。）

105 p

（「一〇五 p」とはしない。）

最終のページ付の後に内容が表示されたページ等がある場合でも、その部分が重要であるとき、または注記で言及されているページが含まれているときを除いて記録しない。内容が表示されたページでなくても最終のページ付が表示されている場合は、これを記録する。

（参照：ページ付のない部分が含まれている場合は、#2.17.1.1.4 を見よ。）

数字ではなく文字等を用いたページ付の場合は、先頭と最終の文字等を記録する。

A-Z p

#2.17.1.1.2 数字等 任意追加

本文にページ付がない絵本等で、奥付にページ数の表示がある場合は、そのページ数をページ付の最終数とみなして記録する。

33 p

#2.17.1.1.2 数字等 別法

表示されたページ付の最終数をアラビア数字で記録する。

238 p

97 p

（ローマ数字でページ数が示され、最終数の表記は「xcvii」）

最終のページ付の後に内容が表示されたページ等がある場合でも、その部分が重要であるとき、または注記で言及されているページが含まれているときを除いて記録しない。内容が表示されたページでなくても最終のページ付が表示されている場合は、これを記録する。

(参照：ページ付のない部分が含まれている場合は、#2.17.1.1.4 を見よ。)

数字ではなく文字等を用いたページ付の場合は、先頭と最終の文字等を記録する。

A-Z p

#2.17.1.1.2 数字等 別法 任意追加

本文にページ付がない絵本等で、奥付にページ数の表示がある場合は、そのページ数をページ付の最終数とみなして記録する。

33 p

#2.17.1.1.3 ページ付のない資料

ページ付のない資料は、次のいずれかの方法で記録する。

- a) 全体のページ数等を数え、そのページ数等の後に「ページ付なし」等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「unnumbered」の語を用いる。

ページ数等を数える場合、広告など内容にかかわらないものは含めない。

94 p (ページ付なし)

94 unnumbered pages

- b) ページ数等の概数を記録する。

約 300 p

approximately 300 pages

- c) 「1 冊」と記録し、「ページ付なし」等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「1 volume (unpaged)」と記録する。

1 冊 (ページ付なし)

1 冊 (丁付なし)

1 volume (unpaged)

#2.17.1.1.4 複数のページ付

ページ付が複数に分かれた資料は、ページ付ごとにコンマで区切って記録する。ページ付のない部分が含まれている場合に、その部分が重要であるとき、または注記で言及されているページ付が含まれているときは、ページ数等を数え「ページ付なし」等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「unnumbered」の語を用いる。

22, 457, 64 p

xvii, 530 p

30 p, 120 枚

18 (ページ付なし), 220, 25 p

22, 457, 64 pages

xvii, 530 pages

30 pages, 120 leaves

18 unnumbered pages, 220, 25 pages

ページ付のない部分のうち、広告など内容にかかわらないものは含めない。

一連のページ付の途中で番号の表示方法に変更がある場合は、新たな種類のページ付とは見なさず、最終数のみを記録する。

457 p

(i-xv ページにローマ数字、16-457 ページにアラビア数字が用いられている。)

#2.17.1.1.4A 初期印刷資料 (和古書・漢籍を除く)

ページ付が複数に分かれている場合は、ページ付ごとにコンマで区切って記録する。ページ付のない部分が含まれている場合は、ページ付のない部分のページ等を数え「ページ付なし」等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「unnumbered」の語を用いる。

12 unnumbered pages, 72 pages, 10 unnumbered pages, 48 pages, 6

unnumbered pages, 228 pages, 16 unnumbered pages

91 leaves, 1 unnumbered leaf

(最後の一枚にページ付がない場合)

白紙ページ等の内容にかかわらないものが、テキストと同じ一連のページ付のある部分に含まれる場合、または、テキストも含まれる折丁の先頭または最終ページに印刷されていたり、連続した記号がついた別の折丁に印刷されていたりする場合に、簡略に記録できるときは、そのページ付を記録する。または注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.7 を見よ。)

40 leaves, 8 unnumbered pages

一連のページ付の途中で番号の表示方法に変更がある場合は、表示されているとおりにページ付を記録する。

xii pages, 1 unnumbered page, 14-176 pages

(先頭の 12 ページがローマ数字の小文字で表示され、白紙の 1 ページを挟んだ後に残りのページ付がアラビア数字で表示されている場合)

#2.17.1.1.5 複雑または不規則なページ付

ページ付が複雑または不規則な場合は、次のいずれかの方法で記録する。

- a) 総数を記録し、「各種ページ付あり」、「各種番号付あり」等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「in various pagings」等の語を用いる。白紙ページや、広告など内容にかかわらないものは含めない。

500 p (各種ページ付あり)

500 pages in various pagings

100 丁 (各種丁付あり)

- b) 中心的な部分のページ付を記録し、続けて残りの部分の総数を記録する。「各種ページ付あり」等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「variously numbered」等の語を用いる。

234 p, ほかに 266 p (各種ページ付あり)

234 pages, 266 variously numbered pages

- c) 「1 冊 (各種ページ付あり)」等または「1 volume (various pagings)」と記録する。

#2.17.1.1.5A 初期印刷資料 (和古書・漢籍を除く)

表示されている形式および一連のまとまりごとに、ページ付を記録する。

12 unnumbered leaves, 74 leaves, 32 unnumbered leaves, 62 columns, 9 unnumbered pages

#2.17.1.1.6 誤解の恐れのあるページ付

1 ページおきにページ付がある場合や、最後のページ付が誤植である場合など、最後のページ付が、資料の数量について誤解を与える恐れのある場合は、「正しくは」の語に続けて正しい最終数を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「that is」の語を用いる。

48 (正しくは 96) p

48 leaves, that is, 96 pages

(紙葉の両面にテキストが表示されている。)

329 (正しくは 392) p

329, that is, 392 pages

(「392」となるべき最終数のページ付が「329」と誤植されている。)

#2.17.1.1.7 不完全な資料

冊子の最終部分が欠落していて、全体のページ数等が確認できない場合は、確認できるページ付の最終数を記録し、「欠落あり」または「incomplete」を丸がっこに入れて付加する。

(参照: #3.7.1 を見よ。)

254 p (欠落あり)

254 pages (incomplete)

冊子の最初と最後のページ付が部分的に欠落していると思われる場合に、全体のページ数等が確認できないときは、その最初と最後のページ付をハイフンで結んで記録し、その旨を注記として記録する。

(参照: #3.7.1 を見よ。)

p 9-160

leaves 81-149

#2.17.1.1.8 途中から始まるページ付

全体が一連のページ付となっているセットの 1 冊や抜刷などのように、包括的な一連のページ付の途中から始まっているページ付は、その最初と最後のページ付をハイフンで結んで記録する。

p 362-734

pages 362-734

全体の一部が記述対象である場合に、その部分自体のページ付と全体のページ付の双方があるときは、部分のページ付を記録する。必要に応じて、全体のページ付を注記する。

(参照: #2.42.1.2.3 を見よ。)

#2.17.1.1.9 図版

図版が本文のページ付に含まれない場合は、それが一箇所にまとめられているか、資料全体に分散しているかを問わず、#2.17.1.1.9.1、#2.17.1.1.9.2 に従って、そのページ数等を記録する。

図版のページ付が複雑または不規則な場合は、#2.17.1.1.5 のいずれかの方法で記録する。

#2.17.1.1.9.1 ページ付のある図版

本文のページ付に続けて「図版」または「plates」の語を用いて、#2.17.1.1.2 または #2.17.1.1.2 別法に従って、その最終ページ数等を記録する。

246 p, 図版 32 p

xiv, 145 p, 図版 10 枚, 図版 xiii p

246 pages, 32 pages of plates

xiv, 145 pages, 10 leaves of plates, xiii pages of plates

数字ではなく文字等を用いたページ付の場合は、「図版」または「plates」の語を用いて先頭と最終の文字等を記録する。

A-J p, 図版 a-f p

xii, 125 pages, A-J pages of plates

601 pages, A1-A8, B1-B12 pages of plates

語を用いたページ付の場合は、「図版」または「plates」の語を用いて、#2.17.1.1.2 または #2.17.1.1.2 別法に従って記録する。

40 p, 図版 5 p

40 pages, 5 pages of plates

(ページ数がそれぞれ「forty」「five」と語で表記されている)

図版が、丁付けされた紙葉の両面に表示されている場合は、#2.17.1.1.6 に従って記録するか、または注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.9 を見よ。)

#2.17.1.1.9.2 ページ付のない図版

ページ付のない図版が資料の大部分を占める場合、注記で言及されている図版にページ付がない場合、または識別または選択に重要な場合は、「図版」の語を用いて、図版のページ数等を記録し、「ページ付なし」等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「unnumbered」および「plates」の語を用いる。

10 p (ページ付なし), 図版 16 p (ページ付なし)

xvi, 249 p, 図版 12 枚 (ページ付なし)

10 unnumbered pages, 16 unnumbered pages of plates

xvi, 249 pages, 12 unnumbered leaves of plates

正確な数が容易に判明しない場合は、概数を記録する。

#2.17.1.1.10 折り込まれた紙葉

紙葉が折り込まれている場合は、「折り込み」を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「folded」の語を用いる。

96 枚 (折り込み)

150 p, 図版 30 枚 (一部折り込み)

96 folded leaves

150 pages, 30 leaves of plates (some folded)

#2.17.1.1.11 袋綴じの紙葉

袋綴じの紙葉にページ数、丁数、枚数、欄数が表示されている場合は、最終数を記録する。それらの表示がない場合は、紙葉 1 枚をもって 2 ページと数える。

#2.17.1.1.12 重複したページ付

複数言語のテキスト等でページ付が重複している場合は、各ページ付を記録し、重複について注記として記録する。

60, 60 p

(見開きの左ページが英語、右ページが日本語で、言語ごとのページ付がある。)

(参照: #2.42.1.2.4 を見よ。)

#2.17.1.1.13 左右両側からのページ付

ページ付が左右両側からある場合は、優先情報源として選択したタイトル・ページのある側から、すべてのページ付を記録する。

234, 78 p

(タイトル・ページのある右側から縦書きで 234 ページ、左側から横書きで 78 ページのページ付がある。)

#2.17.1.2 複数の冊子から成る資料

複数の冊子から成る資料は、「冊」または「volumes」の語を用いて冊数を記録する。

5 冊

5 volumes

#2.17.1.2A 刊行が完結した逐次刊行物

刊行が完結した逐次刊行物は、冊数を記録する。

#2.17.1.2A 刊行が完結した逐次刊行物 別法

刊行が完結した逐次刊行物は、物理的な冊数の代わりに、順序表示に従って、書誌的巻数を記録する。

(参照：逐次刊行物の順序表示については、#2.4 を見よ。)

#2.17.1.2.1 下位ユニット

必要に応じて、下位ユニットとして、ページ数等を#2.17.1.1～#2.17.1.1.13 に従って記録する。

複数の冊子に連続したページ付がある場合は、下位ユニットとして、全体のページ数等を記録する。

3 冊 (800 p)

3 volumes (800 pages)

複数の冊子にそれぞれ独立したページ付がある場合は、下位ユニットとして各冊のページ数等を記録する。

2 冊 (329; 412 p)

2 volumes (329; 412 pages)

#2.17.1.2.2 刊行が完結していない資料、全体の冊数が不明な資料

刊行が完結していない資料、または完結していても全体の冊数が不明な資料を包括的に記述する場合は、「冊」または「volumes」の語のみを記録する。

(参照：加除式資料については、#2.17.1.3 を見よ。)

冊

volumes

複数の冊子から成る予定の資料がまだすべて刊行されていない場合に、今後刊行されないことが明らかなきは、「冊」または「volumes」の語を用いて刊行済の冊数を記録し、これ以上刊行されないことを注記として記録する。

(参照：#2.42.1.2.2 を見よ。)

#2.17.1.2.2 刊行が完結していない資料、全体の冊数が不明な資料 別法

刊行が完結していない資料、または完結していても全体の冊数が不明な資料を包括的に記述する場合は、数量を記録しない。

複数の冊子から成る予定の資料がまだすべて刊行されていない場合に、今後刊行されないことが明らかなきは、「冊」または「volumes」の語を用いて刊行済の冊数を記録し、これ以上刊行されないことを注記として記録する。

(参照：#2.42.1.2.2 を見よ。)

#2.17.1.3 加除式資料

加除式資料が更新中の場合は、ページ数は記録せず、「冊」または「volumes」と記録する。その後に、「加除式」または「loose-leaf」を丸がっこに入れて付加する。完結後、冊数を記録する。

冊 (加除式)

3 冊 (加除式)

(完結した加除式資料)

volumes (loose-leaf)

3 volumes (loose-leaf)

#2.17.1.3 加除式資料 別法

加除式資料は、ページ数は記録せず、更新中か完結しているかを問わず、「冊」または「volumes」の語を用いて冊数を記録する。その後に、「加除式」または「loose-leaf」を丸がっこに入れて付加する。

1 冊 (加除式)

1 volume (loose-leaf)

#2.17.1.4 シートまたはカードから成る資料

シートまたはカードから成る資料は、キャリアの種類を示す用語とともに枚数を記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「1 sheet」、「sheets」、「1 card」または「cards」の語を用いる。

(参照: 複数のシートまたはカードから成り、ポートフォリオまたはケースに収納されている場合は、#2.17.1.5 を見よ。)

シート 1 枚

シート 5 枚

カード 10 枚

1 sheet

5 sheets

10 cards

折りたたんだ状態でページ順に読むことが想定されている 1 枚のシート (例えば、折本) は、枚数を記録し、「折りたたみ」を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「folded」の語を用いる。ただし、この種の資料は、冊子として扱うことがある。

シート 1 枚 (折りたたみ)

シート 1 枚 (折りたたみ 8 p)

1 folded sheet

1 folded sheet (8 pages)

#2.17.1.4A 初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）

刊行時の状態によらず、広げた状態で読むことが想定されている 1 枚のシートから成る場合は、「シート 1 枚」または「1 sheet」の語に続けて印刷されたページ付を丸がっこに入れて付加する。白紙は含めない。

1 枚のシートが複数の面に折りたたまれ、折りたたんだ状態で読むことが想定されている場合は、「シート 1 枚」と記録したうえで「折りたたみ」を丸がっこに入れて付加し、下位ユニットと広げた状態でのシートの片側の面数を記録する。印刷されていない面も含める。目録用言語として英語を用いる場合は、「1 folded sheet」と記録する。

識別または選択に重要な場合は、面のページ付などのシートの詳細なレイアウトを注記として記録する。

（参照：#2.42.1.2.7 を見よ。）

シート 1 枚 (4 p)

シート 1 枚 (折りたたみ 16 面)

1 sheet (4 pages)

1 folded sheet (16 panels)

#2.17.1.5 ポートフォリオまたはケースに収納されている場合

シート等を収納したポートフォリオまたはケースは、その種類と数を記録する。

ポートフォリオ 1 個

ケース 1 個

1 portfolio

1 case

#2.17.1.5 ポートフォリオまたはケースに収納されている場合 任意追加

下位ユニットとして、収納されたシート等の数を記録する。

ポートフォリオ 1 個 (シート 65 枚)

1 portfolio (65 sheets)

#2.17.2 楽譜の数量

印刷または手書きされた楽譜は、テキストまたは挿絵の有無によらず、楽譜の形式を示す用語に続けて部数を記録し、#2.17.1～#2.17.1.5 任意追加に従って、冊数、枚数、ページ数等を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、その部数に続けて形式を示す用語を記録し、冊数、枚数、ページ数等を丸がっこに入れて付加する。形式を示す用語は、表 2.17.2 の語を用いる。

（参照：機器種別が「コンピュータ」の場合は、#2.17.0.2.1A を見よ。マイクロフィッシュまたはマイクロフィルムの場合は、#2.17.0.2.1B を見よ。）

スコア 1 部 (2 冊 (iv, 329 p))

スコア 1 部 (38 枚)

コンデンス・スコア 1 部 (8 p)

ヴォーカル・スコア 1部 (194 p)
 1 score (2 volumes (iv, 329 pages))
 1 condensed score (8 pages)
 1 vocal score (194 pages)

パート譜は、部数のみを記録し、冊数、ページ数等は付加しない。

パート譜 4部
 4 parts

表 2.17.2 楽譜の形式を示す用語

ヴォーカル・スコア	vocal score
クワイア・ブック	choir book
コーラス・スコア	chorus score
コンデンス・スコア	condensed score
指揮者用ヴァイオリン・パート譜	violin conductor part
指揮者用ピアノ・パート譜	piano conductor part
スコア	score
スタディ・スコア	study score
テーブル・ブック	table book
パート譜	part
ピアノ・スコア	piano score
合奏譜	

表 2.17.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が記述対象の形式を表す簡略な用語を定めて記録する。

#2.17.2 楽譜の数量 別法

印刷または手書きされた楽譜は、テキストまたは挿絵の有無によらず、楽譜の形式を示す用語に続けて冊数を記録し、#2.17.1～#2.17.1.5 任意追加に従って、ページ数等を丸がっこに入れて付加する。シートから成る楽譜の場合は、その形式を示す用語に続けて枚数を記録する。形式を示す用語は、表 2.17.2 の語を用いる。

(参照：機器種別が「コンピュータ」の場合は、#2.17.0.2.1A を見よ。マイクロフィッシュまたはマイクロフィルムの場合は、#2.17.0.2.1B を見よ。)

スコア 2冊 (iv, 329 p)
 スコア 38枚
 コンデンス・スコア 1冊 (8 p)
 ヴォーカル・スコア 1冊 (194 p)

パート譜は、部数のみを記録し、冊数、ページ数等は付加しない。

パート譜 4 部

表 2.17.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が記述対象の形式を表す簡略な用語を定めて記録する。

#2.17.2.1 複数の形式の楽譜から成る場合

複数の形式の楽譜は、それぞれの形式とその部数を記録し、冊数、ページ数等を丸がっこに入れて付加する。

スコア 1 部 (119 p)

パート譜 45 部

(スコア 1 部 (119 ページの冊子 1 冊) とパート譜 45 部でセットになった楽譜)

単一のキャリアに複数の形式の楽譜が収められている場合は、それぞれの形式と部数を記録し、ページ数等を丸がっこに入れて付加する。

スコア 1 部, パート譜 1 部 (8 p)

1 score and 1 part (8 pages)

(8 ページの冊子 1 冊にスコアとパート譜が収められている場合)

識別または選択に重要な場合は、複数の形式の楽譜の詳細を注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.8 を見よ。)

#2.17.2.1 複数の形式の楽譜から成る場合 別法

複数の形式の楽譜は、それぞれの形式とその冊数、部数および (または) 枚数を記録する。冊数を記録する場合は、ページ数等を丸がっこに入れて付加する。

スコア 1 冊 (119 p)

パート譜 45 部

(119 ページのスコア 1 冊とパート譜 45 部でセットになった楽譜)

冊子 1 冊に複数の形式の楽譜が収められている場合は、それぞれの形式を記録した後に「1 冊」と記録し、ページ数等を丸がっこに入れて付加する。

スコア, パート譜 1 冊 (8 p)

(8 ページの冊子 1 冊にスコアとパート譜が収められている場合)

#2.17.3 地図資料の数量

地図資料は、その種類を示す用語に続けて図等の数を記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、図等の数を記録し、その種類を示す用語を付加する。種類を示す用語および単位を示す助数詞は、表 2.17.3 の語を用いる。

(参照: 機器種別が「コンピュータ」の場合は、#2.17.0.2.1A を見よ。マイクロフィッシュまたはマイクロフィルムの場合は、#2.17.0.2.1B を見よ。)

地図 2 図

断面図 3 図

模型 6 基

地球儀 1 基

2 maps

1 globe

表 2.17.3 地図資料の種類を示す用語と用いる助数詞

地図資料の種類	用いる助数詞
地図 map *	図
ダイアグラム diagram	図
対景図 view	図
断面図 section	図
地球儀 globe	基または点
地質断面図 profile	図
地図帳 atlas	部
天球儀 globe	基または点
模型 model	基または点
リモートセンシング図 remote-sensing image	図

*表中に該当する用語が他にない場合に使用する。

表 2.17.3 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が記述対象の種類を表す簡略な用語を定めて記録する。静止画（参照：#2.17.4 を見よ。）または三次元資料（参照：#2.17.5 を見よ。）に該当する場合は、それぞれの種類を表す用語を用いる。

掛図 3 点

ジグソー・パズル 1 点

複数の種類のユニットから成る場合は、それぞれの種類を適切に表す用語を用いて記録する。

地図 4 図

対景図 3 図

(地図 4 図と対景図 3 図から成る資料)

#2.17.3 地図資料の数量 別法

地図資料は、その種類を示す用語に続けて枚数等を記録する。種類および単位を示す助数詞は、表 2.17.3 別法の語を用いる。目録用言語として英語を用いる場合は、枚数等を記録し、その種類を付加する。

(参照：機器種別が「コンピュータ」の場合は、#2.17.0.2.1A を見よ。マイクロフィッシュまたはマイクロフィルムの場合は、#2.17.0.2.1B を見よ。)

地図 2 枚

断面図 3 枚

模型 6 基

地球儀 1 基

表 2.17.3 別法 地図資料の種類を示す用語と用いる助数詞

地図資料の種類	用いる助数詞
地図 map *	枚
ダイアグラム diagram	枚
対景図 view	枚
断面図 section	枚
地球儀 globe	基
地質断面図 profile	枚
地図帳 atlas	冊
天球儀 globe	基
模型 model	基
リモートセンシング図 remote-sensing image	枚

*表中に該当する用語が他にない場合に使用する。

表 2.17.3 別法に適切な用語がない場合は、データ作成機関が記述対象の種類を表す簡略な用語を定めて記録する。静止画 (#2.17.4 別法) または三次元資料 (#2.17.5) に該当する場合は、それぞれの種類を表す用語を用いる。

掛図 3 巻

ジグソー・パズル 1 点

複数の種類のユニットから成る場合は、それぞれの種類を適切に表す用語を用いて記録する。

地図 4 枚

対景図 3 枚

(地図 4 枚と対景図 3 枚から成る資料)

#2.17.3.1 地図帳

地図帳は、その種類を示す用語と部数を記録し、#2.17.1～#2.17.1.1.13 に従って、冊数および (または) ページ数等を丸がっこに入れて付加する。

地図帳 1 部 (324 p)

地図帳 1 部 (2 冊 (532 p))

1 atlas (324 pages)

1 atlas (2 volumes (532 pages))

#2.17.3.1 地図帳 別法

*地図帳は、その種類を示す用語と冊数を記録し、#2.17.1～#2.17.1.1.13 に従って、ペ

ージ数等を丸がっこに入れて付加する*。

地図帳 1 冊 (324 p)

地図帳 2 冊 (532 p)

#2.17.3.2 シートが複数の図から成る場合

シートが複数の図から成る場合は、必要に応じて、図数の後に枚数を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「on」の語に続けて枚数を付加する。

地図 3 図 (シート 1 枚)

地図 5 図 (シート 2 枚)

5 maps on 2 sheets

#2.17.3.2 シートが複数の図から成る場合 別法

シートが複数の図から成る場合は、必要に応じて、枚数の後に図数を丸がっこに入れて付加する。

地図 1 枚 (3 図)

地図 2 枚 (5 図)

#2.17.3.3 複数の部分図から成る場合

1 枚のシート内で図が複数の部分図から成る場合は、必要に応じて、図数の後に部分図数を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「in」の語に続けて部分図数を付加する。

地図 1 図 (3 部分図)

1 map in 3 segments

1 section in 4 segments

2 views in 6 segments

図を構成する部分図が複数のシートにわたる場合は、必要に応じて、図数の後に枚数を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「on」の語に続けて枚数を付加する。

地図 1 図 (シート 2 枚)

1 map on 2 sheets

#2.17.3.3 複数の部分図から成る場合 別法

図が複数の部分図から成る場合は、必要に応じて、部分図の枚数の後に形成される図数を丸がっこに入れて付加する。

地図 3 枚 (1 図)

#2.17.4 静止画の数量

静止画は、キャリア数（記録媒体である紙等の枚数）ではなく、静止画の種類を示す用語に続けて画像の点数を記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、画像の点数に続けてその種類を記録する。種類は、表 2.17.4 に示す用語を用いる。

(参照：機器種別が「コンピュータ」の場合は、#2.17.0.2.1A を見よ。マイクロフィッシ

ュまたはマイクロフィルムの場合は、#2.17.0.2.1Bを見よ。その他のキャリア種別（スライド、トランスペアレンシー等）の静止画については、#2.17.0.2を見よ。主に静止画から成る冊子については、#2.17.1を見よ。セットについては、#2.17.4.1を見よ。）

版画 1 点

（記述対象は、1 作品から成るシート 1 枚の資料、または 1 作品が複数のシートにまたがる資料）

写真 22 点

掛図 1 点

絵画 2 点

ポスター 2 点

1 print

22 photographs

表 2.17.4 静止画の種類を示す用語

静止画資料 picture *
アクティビティ・カード activity card
アイコン icon
絵はがき postcard
絵画 painting
掛図 wall chart
コラージュ collage
写真 photograph
スタディ・プリント study print
図表 chart
製図 technical drawing
素描 drawing
版画 print
フラッシュ・カード flash card
放射線写真 radiograph
墨跡
ポスター poster

*表中に該当する用語が他にない場合に使用する。

表 2.17.4 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が記述対象の種類を表す簡略な用語を定めて記録する。

絵図 1 点

複数の種類のユニットから成る場合は、それぞれの種類を適切に表す用語を用いて記録する。

ポスター 1 点

絵はがき 3 点

(ポスター1点と絵はがき3点から成る資料)

#2.17.4 静止画の数量 別法

静止画は、その種類を示す用語に続けてキャリア数（記録媒体である紙等の枚数）を記録する。種類は、表 2.17.4 に示す用語を用いる。単位を示す助数詞は、一枚ものには「枚」を、巻物には「巻」または「軸」を、屏風には「曲」と「隻」または「双」の組み合わせを用いる。目録用言語として英語を用いる場合は、キャリア数を記録し、その種類を付加する。

(参照：機器種別が「コンピュータ」の場合は、#2.17.0.2.1A を見よ。マイクロフィッシュまたはマイクロフィルムの場合は、#2.17.0.2.1B を見よ。その他のキャリア種別（スライド、トランスペアレンシー等）の静止画については、#2.17.0.2 を見よ。主に静止画から成る冊子については、#2.17.1 を見よ。セットについては、#2.17.4.1 を見よ。)

版画 1 枚

(記述対象は、1 作品から成るシート 1 枚の資料)

版画 2 枚

(記述対象は、1 作品が 2 枚のシートにまたがる資料)

写真 22 枚

掛図 2 巻

絵画 1 軸

絵画 6 曲 1 双

ポスター 2 枚

(記述対象は、シート 2 枚から成る資料)

表 2.17.4 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が記述対象の種類を表す簡略な用語を定めて記録する。

絵図 1 枚

複数の種類のユニットから成る場合は、それぞれの種類を適切に表す用語を用いて記録する。

ポスター 1 枚

絵はがき 3 枚

(ポスター1枚と絵はがき3枚から成る資料)

#2.17.4.1 セット

セットの場合は、静止画の種類を示す用語と、冊数または組数を記録する。必要に応じ

て種類を表す語に「帳」を付加する。

写真帳 1 冊
 かるた 1 組
 掛図帳 1 冊
 紙芝居 1 組
 絵はがき 1 組

#2.17.4.1 セット 任意追加

冊数または組数の後に、#2.17.1.1～#2.17.1.4 に従って、枚数等を丸がっこに入れて付加する。

写真帳 1 冊 (135 枚)
 かるた 1 組 (絵札 48 枚, 読札 48 枚)
 掛図帳 1 冊 (14 枚)
 紙芝居 1 組 (24 枚)
 絵はがき 1 組 (10 枚)

#2.17.4.2 静止画の数とキャリア数が一致しない場合等

静止画の数とキャリア数が一致しない場合は、必要に応じて、静止画の数の後にキャリアの種類を示す用語とその数を丸がっこに入れて付加する。キャリアの種類を示す用語とユニットの単位を示す助数詞は、表 2.17.0.2 に示したもののほか、記述対象を適切に表現する語を用いる。目録用言語として英語を用いる場合は、「on」の語に続けてキャリア数とその種類を付加する。

写真 8 点 (シート 1 枚)
 設計図 1 点 (シート 4 枚)
 絵画 1 点 (屏風 6 曲 1 双)
 8 photographs on 1 sheet

#2.17.4.2 静止画の数とキャリア数が一致しない場合等 別法

静止画の数とキャリア数が一致しない場合は、必要に応じて、静止画のキャリア数の後に静止画の数を丸がっこに入れて付加する。

写真 1 枚 (8 点)
 設計図 4 枚 (1 点)

#2.17.5 三次元資料の数量

三次元資料は、その種類を示す用語に続けてユニット数を記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、ユニット数に続けてその種類を記録する。種類は表 2.17.5 の用語を用い、単位を示す助数詞は「点」を用いる。

彫刻 1 点
 模型 3 点

3 models

表 2.17.5 三次元資料の種類を示す用語

玩具 toy
ゲーム game
コイン coin
ジオラマ diorama
ジグソー・パズル jigsaw puzzle
実用模型 mock-up
彫刻 sculpture
展示物 exhibit
標本 specimen
メダル medal
模型 model

表 2.17.5 に適切な用語がない場合、またはより特定の用語が望ましい場合は、データ作成機関が記述対象の種類を表す簡略な用語を定めて記録する。この場合、必要に応じて、付録#B.2 に掲げた種類を示す語および対応する助数詞を用いる。

鉢 1 口

人形 2 体

団扇 1 枚

#2.17.5.1 下位ユニット

記述対象に個々の構成部分がある場合は、必要に応じて構成部分の種類と数を、下位ユニットとして記録する。

ジグソー・パズル 1 点 (ピース 500 点)

1 jigsaw puzzle (500 pieces)

構成部分を簡略に表現できない場合、または構成部分の数量を容易に確認できない場合は、「1 組」等とし、下位ユニットとして「各種構成物あり」または「various pieces」と記録する。識別または選択に重要な場合は、構成部分の内訳を注記として記録する。

(参照: #2.42.1.2.1 を見よ。)

ゲーム 1 組 (各種構成物あり)

1 game (various pieces)

#2.18 大きさ

大きさは、エレメントである。

#2.18.0 通則**#2.18.0.1 記録の範囲**

記述対象のキャリアおよび（または）容器の寸法（高さ、幅、奥行など）を、大きさとして記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.18.0.1.1 エレメント・サブタイプ（各種の資料）

大きさには、資料の種類によって、次のエレメント・サブタイプがある。

- a) 地図等の大きさ（参照：#2.18.1、#2.18.1 別法を見よ。）
- b) 静止画の大きさ（参照：#2.18.2、#2.18.2 別法を見よ。）

#2.18.0.2 記録の方法

キャリアまたは容器の外側の寸法を、別途指示のない限り、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。キャリアを計測する箇所は、キャリア種別ごとに定めた#2.18.0.2.1A～#2.18.0.2.1O に従う。また、シート（巻物を含む）から成る地図等は#2.18.1、静止画は#2.18.2 に従う。

#2.18.0.2 記録の方法 別法

キャリアまたは容器の外側の寸法を、データ作成機関の使用単位、計測法で記録する。単位を示す用語は、付録#A.3 に従って略語を使用する。キャリアを計測する箇所は、キャリア種別ごとに定めた#2.18.0.2.1A～#2.18.0.2.1O に従う。また、シート（巻物を含む）から成る地図等は#2.18.1、静止画は#2.18.2 に従う。

#2.18.0.2.1 各キャリア種別の大きさ**#2.18.0.2.1A 冊子**

冊子は、外形の高さを記録する。外形の高さが 10cm 未満のものは、センチメートルの単位で小数点以下 1 桁まで端数を切り上げて記録する。縦長本、横長本、柘型本は、縦、横の長さを「×」で結んで記録する。

22 cm

8.7 cm

21 × 9 cm

15 × 25 cm

15 × 15 cm

テキスト・ブロック（冊子の表紙・背などの外装を除いた本体部分）の大きさと製本状態の大きさに無視できない違いがある場合に、識別または選択に重要なときは、テキスト・ブロックの大きさを記録し、製本状態の大きさを丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「in」の語に続けて製本状態の大きさを付加する。

20 cm (製本 25 cm)

20 cm in binding 25 cm

テキスト・ブロックの大きさが異なるものを合冊している場合は、製本状態の大きさの

みを記録する。識別または選択に重要な場合は、テキスト・ブロックの大きさについて注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.1、#3.7.2 を見よ。)

製本が刊行後のものである場合(所蔵機関での再製本など)は、そのことを注記として記録する。

(参照: #3.7.2 を見よ。)

#2.18.0.2.1A 冊子 任意追加 1

和古書・漢籍については、常にセンチメートルの単位で、小数点以下 1 桁まで端数を切り上げて記録する。

21.6 cm

#2.18.0.2.1A 冊子 任意追加 2

和古書・漢籍については、常に縦、横の長さを「×」で結んで記録する。

26.8 × 19.8 cm

#2.18.0.2.1A 冊子 任意省略

枡型本の横の長さは記録しない。

15 cm

#2.18.0.2.1B カード等

カード、コンピュータ・カード、アパーチュア・カード、立体視カードは、縦、横の長さを「×」で結んで記録する。

9 × 29 cm

(記述対象は、アパーチュア・カード)

#2.18.0.2.1C シート

シートは、本体の縦、横の長さを「×」で結んで記録する。

20 × 25 cm

畳ものは広げた形の縦、横の長さを「×」で結んで記録し、折りたたんだときの外形の縦、横の長さを付加する。

48 × 30 cm (折りたたみ 24 × 15 cm)

48 × 30 cm folded to 24 × 15 cm

折りたたんだ状態でページ順に読むことが想定されている 1 枚のシート(例えば、折本)は、縦の長さを記録する。ただし、この種の資料は、冊子として扱うことがある。

地図等は#2.18.1、静止画は#2.18.2 に従う。

#2.18.0.2.1D フリップチャート

フリップチャートは、縦、横の長さを「×」で結んで記録する。

54 × 61 cm

#2.18.0.2.1E 巻物

巻物は、用紙の高さと広げた状態の長さを記録し、用紙の高さと巻いた状態の直径を

「径」または「diameter」の語とともに付加する。

27 × 410 cm (巻物 27 × 径 6 cm)

27 × 410 cm rolled to 27 × 6 cm in diameter

地図等は#2.18.1、静止画は#2.18.2 に従う。

#2.18.0.2.1E 巻物 別法

巻物は、用紙の高さを記録する。

27 cm

#2.18.0.2.1F オブジェクト

地球儀・天球儀は、その直径を、「径」または「diameter」の語とともに記録する。

径 12 cm

12 cm in diameter

その他の立体物は、高さ、幅、奥行を「×」で結んで記録する。

200 × 80 × 80 cm

必要に応じて、記述対象の高さ、幅、奥行またはその他の大きさのうちの一つで代表させ、計測部分を示す語とともに記録する。

像高 110 cm

110 cm high

(記述対象は、仏像)

径 27 cm

(記述対象は、皿)

必要に応じて、記述対象の高さ、幅、奥行またはその他の大きさを、計測部分を示す語とともに記録する。

高さ 19 × 口径 12 × 胴径 25 × 最大径 40 cm

(記述対象は、釜)

高さ 23 × 口径 12 × 底径 11 cm

(記述対象は、鉄瓶)

高さ 6 × 径 15 cm

(記述対象は、碗)

左右 53 × 高さ 58 cm

(記述対象は、燭台)

身丈 127 × 腰幅 133 cm

(記述対象は、裳)

径 21 × 縁厚 1 cm

(記述対象は、鏡)

高さ、幅、奥行またはその他の大きさのうちの一つが 10cm 未満の場合は、センチメートルの単位で、必要に応じて小数点以下第 1 位まで端数を切り上げて記録する。

70 × 反り 1.7 cm

(記述対象は、刀)

径 6 × 厚 1.2 cm

(記述対象は、板状装身具)

#2.18.0.2.1F オブジェクト 任意追加

重量をグラム単位で付加する。

径 12 cm, 125 g

(記述対象は、鏡)

#2.18.0.2.1G カセット

カセットは、その種類に応じて、次のとおりに記録する。

a) オーディオカセット

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。続けてコンマで区切り、テープの幅をミリメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。

10 × 7 cm, 4 mm テープ

(記述対象は、カセットテープ)

5 × 4 cm, 4 mm テープ

(記述対象は、マイクロカセット)

10 × 7 cm, 4 mm tape

b) コンピュータ・テープ・カセット

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。

10 × 7 cm

c) ビデオカセット、フィルム・カセット

横、縦の長さは記録せず、テープまたはフィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する。8 ミリフィルムについては、その種類を、「スタンダード」、「シングル」、「スーパー」、「マウラー」のいずれかの語を用いて記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「standard」、「single」、「super」、「Maurer」のいずれかの語を用いる。識別または選択に重要な場合は、テープまたはフィルムの長さについて注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.2 を見よ。)

16 mm

シングル 8 mm

d) マイクロフィッシュ・カセット

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。

e) マイクロフィルム・カセット

横、縦の長さは記録せず、フィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する。

#2.18.0.2.1G カセット 別法

カセットは、その種類に応じて、次のとおりに記録する。

a) オーディオカセット

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。続けてコンマで区切り、テープの幅をミリメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。

10 × 7 cm, 4 mm テープ

(記述対象は、カセットテープ)

5 × 4 cm, 4 mm テープ

(記述対象は、マイクロカセット)

10 × 7 cm, 4 mm tape

b) コンピュータ・テープ・カセット

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。

10 × 7 cm

c) *ビデオカセット

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。識別または選択に必要な場合は、続けてコンマで区切り、テープの幅をミリメートルの単位で記録する。識別または選択に重要な場合は、テープの長さについて注記として記録する*。

(参照: #2.42.2.2.2 を見よ。)

d) *フィルム・カセット

横、縦の長さは記録せず、フィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する*。8 ミリフィルムについては、その種類を、「スタンダード」、「シングル」、「スーパー」、「マウラー」のいずれかの語を用いて記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「standard」、「single」、「super」、「Maurer」のいずれかの語を用いる。*識別または選択に重要な場合は、フィルムの長さについて注記として記録する*。

(参照: #2.42.2.2.2 を見よ。)

16 mm

シングル 8 mm

e) マイクロフィッシュ・カセット

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。

f) マイクロフィルム・カセット

横、縦の長さは記録せず、フィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する。

#2.18.0.2.1H カートリッジ

カートリッジは、その種類に応じて、次のとおりに記録する。

a) オーディオ・カートリッジ

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。続けてコンマで区切り、テープの幅をミリメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。

14 × 10 cm, 7 mm テープ

14 × 10 cm, 7 mm tape

b) コンピュータ・チップ・カートリッジ、コンピュータ・ディスク・カートリッジ、 コンピュータ・テープ・カートリッジ

機器に挿入される辺の長さを記録する。

10 cm

c) ビデオ・カートリッジ、フィルム・カートリッジ、フィルムストリップ・カートリ ッジ

横、縦の長さは記録せず、テープまたはフィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する。8ミリフィルムについては、その種類を、「スタンダード」、「シングル」、「スーパー」、「マウラー」のいずれかの語を用いて記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「standard」、「single」、「super」、「Maurer」のいずれかの語を用いる。識別または選択に重要な場合は、テープまたはフィルムの長さについて注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.2 を見よ。)

16 mm

シングル 8 mm

d) マイクロフィルム・カートリッジ

横、縦の長さは記録せず、フィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する。

#2.18.0.2.1H カートリッジ 別法

カートリッジは、その種類に応じて、次のとおりに記録する。

a) オーディオ・カートリッジ

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。*オーディオテープ・カートリッジは、続けてコンマで区切り、テープの幅をミリメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する*。

8 × 7 cm

14 × 10 cm, 7 mm テープ

14 × 10 cm, 7 mm tape

b) コンピュータ・チップ・カートリッジ、コンピュータ・ディスク・カートリッジ、

コンピュータ・テープ・カートリッジ

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で、必要に応じて小数点以下第1位まで記録する。

6 × 9 cm

3.5 × 3.5 cm

c) *ビデオ・カートリッジ

横、縦の長さを「×」で結び、センチメートルの単位で小数点以下の端数を切り上げて記録する。ビデオテープ・カートリッジは、識別または選択に必要な場合は、続けてコンマで区切り、テープの幅をミリメートルの単位で記録する*。

13 × 13 cm

d) *フィルム・カートリッジ、フィルムストリップ・カートリッジ

横、縦の長さは記録せず、フィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する*。8ミリフィルムについては、その種類を、「スタンダード」、「シングル」、「スーパー」、「マウラー」のいずれかの語を用いて記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「standard」、「single」、「super」、「Maurer」のいずれかの語を用いる。*識別または選択に重要な場合は、フィルムの長さについて注記として記録する*。

(参照: #2.42.2.2.2 を見よ。)

16 mm

シングル 8 mm

e) マイクロフィルム・カートリッジ

横、縦の長さは記録せず、フィルムの幅のみをミリメートルの単位で記録する。

#2.18.0.2.1I ディスク

ディスクは、直径を記録する。

30 cm

12 cm

ディスクの形状が標準でない場合（例：ディスクが円形でない）は、記録面の大きさを記録し、外形の寸法は注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.3 を見よ。)

18 cm

(ディスクの外形は 20 × 20 cm の正方形)

#2.18.0.2.1J リール

リールは、直径を記録する。続けてコンマで区切り、フィルムまたはテープの幅をミリメートルの単位で記録する。フィルム・リール、ビデオテープ・リールの8ミリフィルムについては、その種類を、「スタンダード」、「シングル」、「スーパー」、「マウラー」のいずれかの語を用いて記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「standard」、「single」、「super」、「Maurer」のいずれかの語を用いる。フィルム・リール、ビデオテ

ープ・リールは、識別または選択に重要な場合は、フィルムまたはテープの長さについて注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.2 を見よ。)

13 cm, 7 mm テープ

13 cm, 7 mm tape

(記述対象は、オーディオテープ・リール)

13 cm, 35 mm

(記述対象は、マイクロフィルム・リール)

#2.18.0.2.1J リール 任意省略

テープ幅 6.3 mm の規格のオーディオテープ・リール、サウンドトラック・リールは、テープの幅の記録を省略する。

直径 7.5 cm の規格のマイクロフィルム・リールは、直径の記録を省略する。

#2.18.0.2.1K ロール

ロールは、フィルムの幅をミリメートルの単位で記録する。8 ミリフィルムについては、その種類を、「スタンダード」、「シングル」、「スーパー」、「マウラー」のいずれかの語を用いて記録する。目録用言語として英語を用いる場合は、「standard」、「single」、「super」、「Maurer」のいずれかの語を用いる。識別または選択に重要な場合は、フィルムの長さについて注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.2 を見よ。)

35 mm

シングル 8 mm

#2.18.0.2.1L スライド

スライドは、マウントの縦、横の長さを「×」で結んで記録する。

5 × 5 cm

(記述対象は、写真スライド)

3 × 8 cm

(記述対象は、顕微鏡スライド)

#2.18.0.2.1M トランスペアレンシー

トランスペアレンシーは、フレームまたは台紙を除いた縦、横の長さを「×」で結んで記録する。識別または選択に重要な場合は、フレームまたは台紙を含めた大きさについて注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.3 を見よ。)

21 × 30 cm

#2.18.0.2.1N フィルムストリップ、フィルムスリップ

フィルムストリップおよびフィルムスリップは、フィルムの幅をミリメートルの単位で記録する。

35 mm

#2.18.0.2.10 マイクロオペーク、マイクロフィッシュ

マイクロオペークおよびマイクロフィッシュは、縦、横の長さを「×」で結んで記録する。

10 × 15 cm

#2.18.0.2.2 容器に収納された記述対象

記述対象が容器に収納されている場合に、識別または選択に重要なとき、または管理に必要なときは、容器の種類と大きさを、次のいずれかの方法で記録する。容器の大きさは、高さ、幅、奥行を「×」で結んで記録する。

- a) キャリアの大きさを記録し、さらに容器の大きさを記録する。

径 13 cm

箱 21 × 21 × 14 cm

(箱入の地球儀)

- b) 容器の大きさのみを記録する。

箱 20 × 25 × 20 cm

(記述対象が多種類の資料から成る場合)

#2.18.0.2.3 複数のキャリアから成る体現形

記述対象が、同一キャリア種別の複数のキャリアから成り、かつ各キャリアの大きさが同じ場合は、キャリア 1 点の大きさを記録する。

10 × 15 cm

(この大きさのマイクロフィッシュ 30 枚から成る。)

ただし、製本されていない複数のシートから成るテキスト資料の大きさは、冊子と同じく、#2.18.0.2.1A に従って記録する。シートが常に折りたたんだ状態である場合は、折りたたんだときの大きさを付加する。

50 × 69 cm (折りたたみ 25 × 23 cm)

50 × 69 cm folded to 25 × 23 cm

(テキストによる一連のシート 20 枚を帙に収めたセット)

記述対象が、同一キャリア種別の複数のキャリアから成り、かつ各キャリアの大きさが異なる場合は、最も小さいものと最も大きいものの大きさを、ハイフンで結んで記録する。

20-26 cm

18 × 24 cm-24 × 30 cm

複数の形式から成る楽譜で、形式によって大きさが異なる場合は、それぞれの大きさを記録する。

(参照: #2.17.2.1、#2.17.2.1 別法を見よ。)

22 cm

26 cm

(スコアとパート譜から成る資料。数量として「スコア 1 部」、「パート譜 45 部」を記録した場合 (スコアの高さが 22cm、パート譜の高さが 26cm))

記述対象が、キャリア種別の異なる複数のキャリアから成る場合は、#2.14.0.4.1 に従って記録する。

#2.18.0.2.3 複数のキャリアから成る体現形 任意省略

記述対象が、同一キャリア種別の 3 種類以上の大きさのキャリアから成る場合は、最大のキャリアの大きさのみを記録した後に、「最大」の語を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「or smaller」の語を付加する。

25 × 40 cm (最大)

25 × 40 cm or smaller

#2.18.0.2.4 複数の容器に収納された記述対象

記述対象が、大きさの同じ複数の容器に収納されている場合は、容器 1 点の大きさを、#2.18.0.2.2 に従って記録する。

箱 20 × 15 × 15 cm

(この大きさの容器 5 箱から成る。)

記述対象が、大きさの異なる複数の容器に収納されている場合は、最も小さな容器の大きさと、最も大きな容器の大きさを、ハイフンで結んで記録する。

箱 20 × 15 × 15 cm-30 × 24 × 20 cm

#2.18.0.2.5 変化

記述対象が複数巻単行資料または逐次刊行物で、刊行途中で大きさの変化が生じた場合は、#2.18.0.2.3 に従って記録する。

18-24 cm

記述対象が更新資料で、刊行途中で大きさの変化が生じた場合は、最新のイテレーションの大きさに改める。

いずれの場合も、識別または選択に重要なときは、変化が生じたことを注記として記録する。

(参照: #2.42.2.2.5.1、#2.42.2.2.5.1 任意省略、#2.42.2.2.5.2、#2.42.2.2.5.2 任意省略を見よ。)

<#2.18.1～#2.18.2 各種の資料の大きさ>

#2.18.1 地図等の大きさ

地図等の大きさは、大きさの要素・サブタイプである。

記述対象が 1 枚または複数枚のシート (巻物を含む) から成る地図、対景図、地質断面図等の場合は、記録媒体である紙等の大きさではなく、地図等そのものの大きさを記録する。

#2.18.1.1～#2.18.1.4 のほか、#2.18.0.2 に従う。

19 × 28 cm

(シートの大きさから 21 × 30 cm とは記録しない。)

地図帳は、#2.18.0.2.1A に従って記録する。

#2.18.1 地図等の大きさ 別法

地図等の大きさは、大きさの要素・サブタイプである。

記述対象が 1 枚または複数枚のシート (巻物を含む) から成る地図、対景図、地質断面図等の場合は、地図等そのものの大きさではなく、記録媒体である紙等の大きさを、#2.18.0.2.1C、#2.18.0.2.1E のほか、#2.18.0.2 に従って記録する。#2.18.1.1～#2.18.1.4 は適用しない。

21 × 30 cm

(地図そのものの大きさから 19 × 28 cm とは記録しない。)

74 × 101 cm (折りたたみ 24 × 15 cm)

地図帳は、#2.18.0.2.1A に従って記録する。

#2.18.1.1 計測の方法

地図等の大きさを、適当な図郭線の間を計測し、縦、横の長さを「×」で結んで記録する。円形の地図はその直径を、「径」または「diameter」の語とともに記録する。

30 × 40 cm

径 22 cm

22 cm in diameter

不規則な形の場合、図郭線がない場合、端が欠落している場合は、最大の大きさを記録する。

著しく不規則な形をしていたり、縁取りなしに印刷されていたりするなど、縦、横の計測位置を決定しがたい場合は、記録媒体である紙等の大きさを、「シート」または「sheet」の語とともに記録する。

シート 30 × 40 cm

sheet 30 × 40 cm

地図等の大きさがシートの大きさの半分に満たない場合、またはシート内に地図等以外に重要な情報 (テキスト等) がある場合は、地図等の大きさを記録した後に、シートの大きさを丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、コンマで区切り、「on」の語を用いてシートの大きさを付加する。

20 × 25 cm (シート 42 × 45 cm)

20 × 25 cm, on sheet 42 × 45 cm

#2.18.1.1 計測の方法 任意追加

センチメートルの単位で小数点以下 1 桁まで端数を切り上げて記録する。

#2.18.1.2 大きさの異なる複数のシートから成る場合

記述対象が、2 種類の大きさのシートから成る場合は、それぞれのシートの大きさを

「および」または「and」で結んで記録する。

シート 30 × 40 cm および 25 × 32 cm

sheets 30 × 40 cm and 25 × 32 cm

記述対象が、3種類以上の大きさのシートから成る場合は、最大のシートの大きさを記録した後に、「最大」の語を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「or smaller」の語を付加する。

シート 45 × 40 cm (最大)

sheets 45 × 40 cm or smaller

#2.18.1.2 大きさの異なる複数のシートから成る場合 別法

記述対象が、複数の大きさのシートから成る場合は、最も小さいものと最も大きいものの大きさを、ハイフンで結んで記録する。

シート 25 × 32 cm-30 × 40 cm

シート 35 × 30 cm-45 × 40 cm

sheets 25 × 32 cm-30 × 40 cm

sheets 35 × 30 cm-45 × 40 cm

#2.18.1.3 複数の部分図から成る場合

地図等が複数の部分図に分割されている場合、またはシートの両面に同縮尺で印刷されている場合は、合成後の地図等の大きさを記録した後に、シートの大きさを丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、コンマで区切り、「on」の語を用いてシートの大きさを付加する。

35 × 80 cm (シート 42 × 45 cm)

35 × 80 cm, on sheet 42 × 45 cm

ただし、合成後の地図等の大きさが計測困難である場合は、シートの大きさのみを記録する。

シート 30 × 42 cm

on sheet 30 × 42 cm

#2.18.1.4 折りたたまれるシートの場合

シートを折りたたんで保管するための外装が施されている場合、またはシート上の特定の部分を表紙として折りたためるよう設計されている場合は、地図等の大きさを記録した後に、折りたたんだ状態のシートの大きさを丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、コンマで区切り、折りたたんだ状態のシートの大きさを付加する。

65 × 90 cm (折りたたみ 24 × 15 cm)

65 × 90 cm, folded to 24 × 15 cm

8 × 24 cm, on sheet 12 × 28 cm, folded in cover 7 × 8 cm

シートの大きさを記録する場合は、シートの大きさの後に、折りたたんだ状態の大きさ

を丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、コンマで区切り、「on」の語を用いてシートの大きさを付加する。

シート 72 × 88 cm (折りたたみ 24 × 22 cm)

35 × 42 cm (シート 72 × 88 cm (折りたたみ 24 × 22 cm))

35 × 42 cm, on sheet 72 × 88 cm, folded to 24 × 22 cm

#2.18.2 静止画の大きさ

静止画の大きさは、大きさの要素・サブタイプである。

シート（巻物を含む）から成る静止画は、記録媒体である紙等の大きさではなく、画面そのものの大きさを記録する。

#2.18.2.1 のほか、#2.18.0.2 に従う。

スライド、トランスペアレンシー等から成る静止画は、#2.18.0.2.1 の該当するキャリア種別の規定に従う。

#2.18.2 静止画の大きさ 別法

静止画の大きさは、大きさの要素・サブタイプである。

静止画は、画面そのものの大きさではなく、記録媒体である紙、スライド等の大きさを、#2.18.0.2.1 の該当するキャリア種別の規定に従って記録する。#2.18.2.1 は適用しない。

#2.18.2.1 計測の方法

画面の縦、横の長さを「×」で結んで記録する。センチメートルの単位で、必要に応じて小数点以下 1 桁まで端数を切り上げて記録する。

73 × 104 cm

45.5 × 52.8 cm

円形もしくは円形に近い形状の場合は、直径を「径」または「diameter」の語とともに記録する。

径 11 cm

11 cm in diameter

四角形、円形以外の形状の場合は、必要に応じて形状を示す語を付加する。

10 × 6 cm (楕円形)

10 × 6 cm oval

画面の大きさがシートの大きさの半分に満たない場合、またはシート内に静止画以外に重要な情報（テキスト等）がある場合は、画面の大きさを記録した後に、シートの大きさを丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、コンマで区切り、「on」の語を用いてシートの大きさを付加する。

30 × 35 cm (シート 70 × 45 cm)

30 × 35 cm, on sheet 70 × 45 cm

#2.19 基底材

基底材は、エレメントである。

#2.19.0 通則**#2.19.0.1 記録の範囲**

記述対象の識別または選択に重要な場合は、その基底となる物理的な材料を、基底材として記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.19.0.2 記録の方法

基底材は、表 2.19.0.2 の用語を用いて記録する。

硝酸エステル

(セルロイド製の写真フィルム)

表 2.19.0.2 材料の種類を示す用語

アクリル絵具 acrylic paint
アセテート acetate
厚紙 cardboard
油絵具 oil paint
アルミニウム aluminium
石 stone
イラスト・ボード illustration board
インク ink
紙 paper
ガラス glass
皮 skin
革 leather
木 wood
キャンバス canvas
金属 metal
グワッシュ gouache
合成物質 synthetic
ゴム rubber
ジアセテート diacetate
ジアゾ diazo emulsion
シェラック shellac
磁製 porcelain

磁粉 magnetic particles
硝酸エステル nitrate
水彩絵具 watercolour
炭 charcoal
墨
石墨 graphite
セーフティ・ベース safety base *
染料 dye
象牙 ivory
チョーク chalk
テンペラ tempera
陶製 ceramic
トリアセテート triacetate
泥
布 textile
パステル pastel
ハードボード hardboard
ハロゲン化銀 silver halide emulsion
ビニール vinyl
プラスター plaster
プラスチック plastic
ブリistol紙 Bristol board
ベシキュラ vesicular emulsion
ベラム vellum
ポリエステル polyester
羊皮紙 parchment
ラッカー lacquer
蠟 wax
和紙

*映画フィルム、写真フィルム、マイクロフィルム、マイクロフィッシュの基底材が、ジアセテート、硝酸エステル、トリアセテート、ポリエステルいずれであるのか不明な場合に用いる。

表 2.19.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が基底材の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

竹皮

草繊維

#2.19.0.3 基底材の詳細

基底材の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、基底材の詳細を記録する。

Cream-color unpolished laid paper with horizontal chain lines and no visible watermarks

Paper watermarked: RIVES

#2.20 付加材

付加材は、エレメントである。

#2.20.0 通則

#2.20.0.1 記録の範囲

記述対象の識別または選択に重要な場合は、基底材に塗布または追加された物理的または化学的材料（例えば、絵具の種類）を、付加材として記録する。

（参照：マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤については、#2.20.1 を見よ。）

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.20.0.2 記録の方法

付加材は、表 2.19.0.2 の用語を用いて記録する。付加材が複数あり、一つが主要な場合は、最初に主要な材料を表す用語を記録する。

水彩絵具

油絵具

（複数の付加材がある絵画）

表 2.19.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が付加材の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

漆

（上記のラッカーでは適切でない場合）

岩絵具

複数の材料が付加されたことが判明しているが、それらのすべてを容易に識別することができない場合は、「混合材」または「mixed materials」と記録する。

#2.20.0.3 付加材の詳細

付加材の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、付加材の詳細を記録する。

#2.20.1 マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤

マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤は、付加材のエレメント・サブタイプである。

記述対象がマイクロフィルム、マイクロフィッシュである場合は、感光剤の種類を、表 2.19.0.2 の用語を用いて記録する。

ハロゲン化銀

表 2.19.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が感光剤の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.20.1.1 マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤の詳細

マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、マイクロフィルム・マイクロフィッシュの感光剤の詳細を記録する。

#2.21 マウント

マウントは、エレメントである。

#2.21.0 通則

#2.21.0.1 記録の範囲

記述対象の識別または選択に重要な場合は、基底材が接着される、土台、枠または裏張りに使う材料を、マウントとして記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.21.0.2 記録の方法

マウントは、表 2.19.0.2 の用語を用いて記録する。

木

表 2.19.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関がマウントの種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

花崗岩

#2.21.0.3 マウントの詳細

マウントの詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、マウントの詳細を記録する。

#2.22 制作手段

制作手段は、エレメントである。

#2.22.0 通則

#2.22.0.1 記録の範囲

記述対象の識別または選択に重要な場合は、それを制作するときに使用された手段を、制作手段として記録する。刊行物、非刊行物の双方に用いる。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.22.0.2 記録の方法

制作手段は、表 2.22.0.2 の用語を用いて記録する。

青焼き

(参照: 書写資料については、#2.22.0.2A を見よ。)

表 2.22.0.2 制作手段の種類を示す用語

青写真	blueprint process
青焼き	blueline process
印刷	printing
エッチング	etching
エングレーヴィング	engraving
エンボス	embossing
銀板写真	daguerreotype process
グラビア印刷	photogravure process
コロタイプ	colloTYPE
写真製版	photoengraving
焼成	burning
白焼き	white print process
スウェル・ペーパー	swell paper
スタンピング	stamping
点字	solid dot
電子複写	photocopying
熱成形	thermoform
銘刻	inscribing
木版	woodcut making
リトグラフィ	lithography

表 2.22.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が制作手段の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

謄写版
 模写
 刺繍
 石印本
 拓本
 点字シルク・スクリーン

#2.22.0.2A 書写資料

- a) 内容に責任を有する個人によって手書きされた書写資料または原稿である場合は、「自筆」または「holograph」の語を用いて記録する。
- b) 自筆以外の手書きの書写資料または原稿である場合は、「書写」または「manuscript」の語を用いて記録する。
- c) 内容に責任を有する個人によってタイプ打ちされた書写資料または原稿である場合

は、「タイプ原稿」または「typescript」の語を用いて記録する。

記述対象が複写である場合は、複写の手段を、「カーボン複写」、「電子複写」、または「転写」の語を用いて、丸がっこに入れて付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「carbon copy」、「photocopy」、または「transcript」を用いる。

自筆（カーボン複写）

タイプ原稿（電子複写）

複写の手段が「転写」である場合は、さらに転写の手段を、「手書き」、「タイプ打ち」、または「プリントアウト」の語を用いて、丸がっこ内に付加する。目録用言語として英語を用いる場合は、「handwritten」、「typewritten」、または「printout」を用いる。

書写（転写, 手書き）

記述対象の制作手段がすべて同一とは限らない場合は、丸がっこ内に語を補って記録する。

書写（電子複写を含む）

manuscript (some photocopy)

#2.22.0.3 制作手段の詳細

制作手段の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、制作手段の詳細を記録する。

#2.23 世代

世代は、エレメントである。

#2.23.0 通則

#2.23.0.1 記録の範囲

識別または選択に重要な場合は、原版のキャリアと、原版から作られた複製のキャリアとの関係を、世代として記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.23.0.2 記録の方法

世代の種類は、表 2.23.0.2 の用語を用いて記録する。

オリジナル・ネガ

（映画フィルム）

オリジナル

（電子資料）

第1世代

ビデオテープまたはマイクロ資料）

プリント・マスター

（マイクロ資料）

スタンパー盤

（録音資料）

表 2.23.0.2 世代の種類を示す用語

<映画フィルム>
オリジナル・ネガ original negative
マスター・ポジ master positive
複製 duplicate
リファレンス・プリント reference print
ビューイング・コピー viewing copy
<電子資料>
オリジナル original
マスター master
デリバティブ・マスター derivative master
<ビデオテープ>
第1世代 first generation
<マイクロ資料>
第1世代 first generation
プリント・マスター printing master
提供用コピー service copy
世代混合 mixed generation
<録音資料>
マスター・テープ master tape
複製マスター・テープ tape duplication master
マスター盤 disc master
マザー盤 mother
スタンパー盤 stamper
テスト盤 test pressing

表 2.23.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が世代の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.23.0.3 世代の詳細

世代の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、世代の詳細を記録する。

#2.24 レイアウト

レイアウトは、エレメントである。

#2.24.0 通則**#2.24.0.1 記録の範囲**

記述対象の識別または選択に重要な場合は、記述対象中のテキスト、画像、触知表記等の配置を、レイアウトとして記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.24.0.2 記録の方法

レイアウトは、表 2.24.0.2 の用語を用いて記録する。

両面

(単一の画像が 1 枚のシートの両面にわたって記載されている地図)

両面

(1 枚のシートの両面に 3 点の異なる画像がある地図)

両面 (異言語)

(1 枚のシートの両面に同一の画像が異なる言語を伴って記載されている地図)

表 2.24.0.2 レイアウトの種類を示す用語

<シートおよびテキスト (触知) 資料>
片面 single sided
ダブル・スペース double line spacing
両面 double sided
<地図資料>
両面 both sides
両面 (異言語) back to back
<楽譜 (触知) 資料>
アウトライン outline
ヴァーティカル・スコア vertical score
オープン・スコア open score
ショート・フォーム・スコアリング short form scoring
シングル・ライン single line
セクション・バイ・セクション section by section
バー・オーバー・バー bar over bar
バー・バイ・バー bar by bar
パラグラフ paragraph
メロディー・コード・システム melody chord system
ライン・オーバー・ライン line over line
ライン・バイ・ライン line by line

表 2.24.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関がレイアウトの種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.24.0.3 レイアウトの詳細

レイアウトの詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、レイアウトの詳細を記録する。

#2.25 書型・判型

書型・判型は、エレメントである。

#2.25.0 通則

#2.25.0.1 記録の範囲

和古書・漢籍については、用紙の大きさを基準にした記述対象の大きさを記録する。

初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）等については、全紙を折りたたんだ結果の、記述対象の形状を記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.25.0.2 記録の方法

記述対象の書型・判型の種類を、表 2.25.0.2 の用語を用いて記録する。

大本

表 2.25.0.2 書型・判型の種類を示す用語

<江戸時代の和古書の書型>
大本
半紙本
中本
小本
<初期印刷資料（和古書・漢籍を除く）などの判型>
2折 folio
4折 4to
8折 8vo
12折 12mo
16折 16mo
24折 24mo
32折 32mo
48折 48mo
64折 64mo

表 2.25.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が書型・判型の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.25.0.3 書型・判型の詳細

書型・判型の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、書型・判型の詳細を記録する。

#2.26 フォント・サイズ

フォント・サイズは、エレメントである。

#2.26.0 通則**#2.26.0.1 記録の範囲**

記述対象の識別または選択に重要な場合は、記述対象中の文字や記号（点字を含む）の大きさを、フォント・サイズとして記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.26.0.2 記録の方法

フォント・サイズは、簡略な用語を用いて記録する。

14 ポイント

1.0rem

pearl

弱視者向け資料のフォント・サイズは、表 2.26.0.2 の用語を用いて記録する。

特大活字

表 2.26.0.2 フォント・サイズの種類を示す用語

大活字	large print
特大活字	giant print
ジャンボ・ブレイル	jumbo braille

表 2.26.0.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関がフォント・サイズの種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.26.0.2 記録の方法 任意追加

フォントの大きさをポイントの単位で、丸がっこに入れて付加する。

大活字 (20 ポイント)

large print (20 point)

#2.26.0.3 フォント・サイズの詳細

フォント・サイズの詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、フォント・サイズの詳細を記録する。

#2.27 極性

極性は、エレメントである。

#2.27.0 通則**#2.27.0.1 記録の範囲**

識別または選択に重要な場合は、映画フィルム、写真、マイクロ資料の画像における色彩および色調と、複製されたものの色彩および色調との関係を、極性として記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.27.0.2 記録の方法

極性は、表 2.27.0.2 の用語を用いて記録する。

ネガ

表 2.27.0.2 極性の種類を示す用語

ネガ	negative
ポジ	positive
極性混合	mixed polarity

#2.27.0.3 極性の詳細

極性の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、極性の詳細を記録する。

#2.28 縮率

縮率は、エレメントである。

#2.28.0 通則**#2.28.0.1 記録の範囲**

識別または選択に重要な場合は、マイクロ資料の原資料に対するマイクロ画像のサイズを、縮率として記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.28.0.2 記録の方法

縮率は、1 を後項とする標準の比の形式で記録する。

16:1

#2.28.1 縮率を示す語句

縮率を示す語句は、エレメントである。

縮率を示す語句を、表 2.28.1 の用語を用いて記録する。

中縮率

極超高縮率

表 2.28.1 縮率を示す語句を示す用語

低縮率	low reduction
中縮率	normal reduction

高縮率	high reduction
超高縮率	very high reduction
極超高縮率	ultra high reduction

#2.28.2 縮率を示す語句の詳細

縮率を示す語句の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、縮率を示す語句の詳細を記録する。

縮率の変更あり

#2.29 録音の特性

録音の特性は、エレメントである。

#2.29.0 通則

#2.29.0.1 記録の範囲

記述対象の識別または選択に重要な場合は、録音に関する技術的仕様を記録する。

(参照：デジタル変換された音声の付加的特性については、#2.32 を見よ。)

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.29.0.2 記録の方法

録音を主な内容とする記述対象については、#2.29.1～#2.29.8 に従って、録音の方式、録音の手段、再生速度、音溝の特性、フィルムのトラック構成、テープのトラック構成、再生チャンネルおよび特定の再生仕様を記録する。

#2.29.0.2 記録の方法 任意追加

録音を主な内容としない記述対象については、識別または選択に重要な場合は、録音の特性を記録する。

#2.29.0.3 録音の特性の詳細

録音の特性の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、録音の特性の詳細を記録する。

(参照：装置・システム要件の詳細については、#2.33.0.2 を見よ。)

#2.29.1 録音の方式

録音の方式は、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

音声の符号化方式を、表 2.29.1 の用語を用いて記録する。

アナログ

表 2.29.1 録音の方式を示す用語

アナログ	analog
デジタル	digital

表 2.29.1 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が録音の方式を示す簡略な用語を定

めて記録する。

(参照: デジタル・コンテンツ・フォーマットについては、#2.32.2 を見よ。)

#2.29.1.1 録音の方式の詳細

録音の方式の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、録音の方式の詳細を記録する。

High resolution digital mastering of songs originally recorded on analog
equipment

#2.29.2 録音の手段

録音の手段は、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

録音の固定に用いた手段の種類（光学、磁気の別など）を、表 2.29.2 の用語を用いて記録する。

光学

表 2.29.2 録音の手段の種類を示す用語

光学	optical
磁気	magnetic
光磁気	magneto-optical

表 2.29.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が録音の手段の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.29.2.1 録音の手段の詳細

録音の手段の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、録音の手段の詳細を記録する。

#2.29.3 再生速度

再生速度は、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

再生速度を記録する。アナログ・ディスクは 1 分当たりの回転数を「rpm」の単位で、デジタル・ディスクは 1 秒当たりの回転数を「m/s」の単位で、アナログ・テープは 1 秒当たりの回転数を「cm/s」または「ips」の単位で、サウンドトラック・フィルムは 1 秒当たりのフレーム数を「fps」の単位で、記録する。

33 1/3 rpm

1.4 m/s

19 cm/s

24 fps

(参照: オンライン音声ファイルのビットレートについては、#2.32.6 を見よ。)

#2.29.3.1 再生速度の詳細

再生速度の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、再生速度の詳細を記録する。

#2.29.4 音溝の特性

音溝の特性は、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

アナログ・ディスクの音溝の幅またはアナログ・シリンダーの音溝のピッチ等を記録する。

#2.29.4A アナログ・ディスク

アナログ・ディスクは、音溝の幅の種類を、表 2.29.4A の用語を用いて記録する。

コース・グルーヴ

表 2.29.4A 音溝の幅の種類を示す用語

コース・グルーヴ	coarse groove
マイクログルーヴ	microgroove

表 2.29.4A に適切な用語がない場合は、データ作成機関が音溝の幅の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.29.4A アナログ・ディスク 任意追加

アナログ・ディスクの標準規格以外の音溝は、方向を記録する。

ヴァーチカル

#2.29.4B アナログ・シリンダー

アナログ・シリンダーは、音溝のピッチの種類を、表 2.29.4B の用語を用いて記録する。

精細

表 2.29.4B 音溝のピッチの種類を示す用語

精細	fine
通常	standard

表 2.29.4B に適切な用語がない場合は、データ作成機関が音溝のピッチの種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.29.4.1 音溝の特性の詳細

音溝の特性の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、音溝の特性の詳細を記録する。

#2.29.5 フィルムのトラック構成

フィルムのトラック構成は、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

サウンドトラック・フィルムは、トラック構成の種類を、表 2.29.5 の用語を用いて記録する。

エッジ・トラック

表 2.29.5 トラック構成の種類を示す用語

エッジ・トラック	edge track
センター・トラック	centre track

#2.29.5.1 フィルムのトラック構成の詳細

フィルムのトラック構成の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、トラック構成の詳細を記録する。

光学録音

磁気録音

Optical sound track

Magnetic sound track

#2.29.6 テープのトラック構成

テープのトラック構成は、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

オーディオテープのカートリッジ、カセットおよびリールは、テープのトラック数を記録する。

12トラック

#2.29.6.1 テープのトラック構成の詳細

テープのトラック構成の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、テープのトラック構成の詳細を記録する。

#2.29.7 再生チャンネル

再生チャンネルは、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

容易に確認できる場合は、再生チャンネルを、表 2.29.7 の用語を用いて記録する。

ステレオ

表 2.29.7 再生チャンネルの種類を示す用語

モノラル	mono
ステレオ	stereo
4チャンネル	quadraphonic
サラウンド	surround

表 2.29.7 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が再生チャンネルの種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.29.7.1 再生チャンネルの詳細

再生チャンネルの詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、再生チャンネルの詳細を記録する。

#2.29.8 特定の再生仕様

特定の再生仕様は、録音の特性のエレメント・サブタイプである。

録音・再生時に用いるイコライゼーション・システムやノイズ・リダクション・システムなどを、表 2.29.8 の用語を用いて記録する。

ドルビーB

表 2.29.8 特定の再生仕様の種類を示す用語

ドルビー	Dolby
ドルビーA	Dolby-A encoded
ドルビーB	Dolby-B encoded
ドルビーC	Dolby-C encoded
リニア PCM	LPCM
CCIR	CCIR encoded
CX	CX encoded
dbx	dbx encoded
NAB	NAB standard

表 2.29.8 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が再生仕様の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.29.8.1 特定の再生仕様の詳細

特定の再生仕様の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、特定の再生仕様の詳細を記録する。

#2.30 映画フィルムの映写特性

映画フィルムの映写特性は、エレメントである。

#2.30.0 通則

#2.30.0.1 記録の範囲

記述対象の識別または選択に重要な場合は、映画フィルムの映写に関係する技術的仕様を、映画フィルムの映写特性として記録する。

(参照：映画の録音の方式については、#2.29 を見よ。映画の画面アスペクト比については、#5.19 を見よ。映画の色彩については、#5.17 を見よ。)

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.30.0.2 記録の方法

#2.30.1～#2.30.2 に従って、映写方式および映写速度を記録する。

#2.30.0.3 映画フィルムの映写特性の詳細

映画フィルムの映写特性の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、映画フィルムの映写特性の詳細を記録する。

#2.30.1 映写方式

映写方式は、映画フィルムの映写特性の要素・サブタイプである。

映画フィルムの映写に使用される方式を、表 2.30.1 の用語を用いて記録する。

シネラマ

表 2.30.1 映写方式の種類を示す用語

サーカラマ	Circarama
シネミラクル	Cinemiracle
シネラマ	Cinerama
ステレオスコピック	stereoscopic
テクニスコープ	techniscope
パナビジョン	Panavision
標準サイレント・アパーチャー	standard silent aperture
標準サウンド・アパーチャー	standard sound aperture
マルチスクリーン	multiscreen
マルチプロジェクター	multiprojector
IMAX	IMAX
3D	3D

表 2.30.1 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が映写方式の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.30.1.1 映写方式の詳細

映写方式の詳細は、要素である。

識別または選択に重要な場合は、映写方式の詳細を記録する。

#2.30.2 映写速度

映写速度は、映画フィルムの映写特性の要素・サブタイプである。

映画フィルムの映写速度は、1 秒当たりのフレーム数を「fps」の単位で記録する。

16 fps

#2.30.2.1 映写速度の詳細

映写速度の詳細は、要素である。

識別または選択に重要な場合は、映写速度の詳細を記録する。

#2.31 ビデオの特性

ビデオの特性は、要素である。

#2.31.0 通則**#2.31.0.1 記録の範囲**

記述対象の識別または選択に重要な場合は、ビデオ画像の符号化に関する技術的仕様を、ビデオの特性として記録する。

(参照：ビデオの録音の方式については、#2.29 を見よ。デジタル・ファイルの特性については、#2.32 を見よ。ビデオの画面アスペクト比については、#5.19 を見よ。ビデオの色彩については、#5.17 を見よ。)

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.31.0.2 記録の方法

#2.31.1～#2.31.2 に従って、ビデオ・フォーマットおよびテレビ放送の標準方式を記録する。

#2.31.0.3 ビデオの特性の詳細

ビデオの特性の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、ビデオの特性の詳細を記録する。

#2.31.1 ビデオ・フォーマット

ビデオ・フォーマットは、ビデオの特性のエレメント・サブタイプである。

アナログ・ビデオのフォーマットを、表 2.31.1 の用語を用いて記録する。

8 mm

表 2.31.1 ビデオ・フォーマットの種類を示す用語

ベータカム	Betacam
ベータカム SP	Betacam SP
ベータマックス	Betamax
CED	CED
D-2	D-2
EIAJ	EIAJ
Hi8	Hi-8 mm
LD	Laser optical
M-II	M-II
S-VHS	Super-VHS
Type C	Type C
U 規格	U-matic
VHS	VHS
4 ヘッド VTR	Quadruplex
8 mm	8 mm

表 2.31.1 に適切な用語がない場合は、データ作成機関がビデオ・フォーマットの種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

VHD

(参照: ビデオのデジタル・コンテンツ・フォーマットについては、#2.32.2 を見よ。)

#2.31.1.1 ビデオ・フォーマットの詳細

ビデオ・フォーマットの詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、ビデオ・フォーマットの詳細を記録する。

(参照: ビデオのデジタル・コンテンツ・フォーマットについては、#2.32.2 を見よ。)

#2.31.2 テレビ放送の標準方式

テレビ放送の標準方式は、ビデオの特性のエレメント・サブタイプである。

テレビ放送用のビデオ映像の放送方式を、表 2.31.2 の用語を用いて記録する。

HDTV

表 2.31.2 テレビ放送の標準方式の種類を示す用語

HDTV
NTSC
PAL
SECAM

表 2.31.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関がテレビ放送の標準方式の種類を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.31.2.1 テレビ放送の標準方式の詳細

テレビ放送の標準方式の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、テレビ放送の標準方式の詳細を記録する。

#2.32 デジタル・ファイルの特性

デジタル・ファイルの特性は、エレメントである。

#2.32.0 通則

#2.32.0.1 記録の範囲

記述対象の識別または選択に重要な場合は、オーディオ、画像、テキスト、ビデオなどのデータのデジタル変換にかかわる技術的仕様を、デジタル・ファイルの特性として記録する。

(参照: 特定の装置要件の詳細については、#2.33 を見よ。)

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.32.0.2 記録の方法

#2.32.1～#2.32.7 に従って、ファイル種別、デジタル・コンテンツ・フォーマット、ファイル・サイズ、解像度、リージョン・コード、ビットレートおよび地図資料のデジタル

表現を記録する。

#2.32.0.3 デジタル・ファイルの特性の詳細

デジタル・ファイルの特性の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、デジタル・ファイルの特性の詳細を記録する。

Copy Control CD

#2.32.1 ファイル種別

ファイル種別は、デジタル・ファイルの特性のエレメント・サブタイプである。

容易に確認できる場合は、デジタル・ファイル内のデータ・コンテンツの種類を、表 2.32.1 の用語を用いて記録する。

テキスト・ファイル

表 2.32.1 ファイル種別を示す用語

オーディオ・ファイル	audio file
画像ファイル	image file
テキスト・ファイル	text file
データ・ファイル	data file
ビデオ・ファイル	video file
プログラム・ファイル	program file

表 2.32.1 に適切な用語がない場合は、データ作成機関がファイル種別を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.32.1.1 ファイル種別の詳細

ファイル種別の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、ファイル種別の詳細を記録する。

#2.32.2 デジタル・コンテンツ・フォーマット

デジタル・コンテンツ・フォーマットは、デジタル・ファイルの特性のエレメント・サブタイプである。

容易に確認できる場合は、記述対象においてデジタル・コンテンツのフォーマットに用いられているスキーマや標準を、できる限り標準的なリストの用語を用いて記録する。

Excel

HTML

JPEG

記述対象の利用に影響がある場合は、デジタル・コンテンツ・フォーマットのバージョンを記録する。

Access 2016

DAISY 2.02

#2.32.2.1 デジタル・コンテンツ・フォーマットの詳細

デジタル・コンテンツ・フォーマットの詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、デジタル・コンテンツ・フォーマットの詳細を記録する。

#2.32.3 ファイル・サイズ

ファイル・サイズは、デジタル・ファイルの特性のエレメント・サブタイプである。

容易に確認できる場合は、デジタル・ファイルの容量を、「KB」、「MB」、「GB」などの単位で記録する。

(参照: オンライン資料の数量については、#2.17.0.2、#2.17.0.2.1 を見よ。)

35 MB

#2.32.4 解像度

解像度は、デジタル・ファイルの特性のエレメント・サブタイプである。

容易に確認できる場合は、画素数を示して解像度を記録する。

3000 × 4000 ピクセル

12.1 メガピクセル

3000 × 4000 pixels

#2.32.5 リージョン・コード

リージョン・コードは、デジタル・ファイルの特性のエレメント・サブタイプである。

ビデオディスクの再生可能な地域を限定するコードを記録する。

リージョン 2

リージョン ALL

#2.32.6 ビットレート

ビットレートは、デジタル・ファイルの特性のエレメント・サブタイプである。

容易に確認できる場合は、ストリーミング・オーディオまたはストリーミング・ビデオの再生速度を記録する。1 秒ごとの処理データ量を「kbps」、「Mbps」などの単位で記録する。

300 kbps

1 Mbps

#2.32.7 地図資料のデジタル表現

地図資料のデジタル表現は、デジタル・ファイルの特性のエレメント・サブタイプである。

デジタルの地図資料については、容易に確認できる場合は、地理空間情報の符号化にかかわる技術的詳細として、次の情報を記録する。

a) データ種別

地図データ種別として記録する (参照: #2.32.7.2 を見よ。)

b) オブジェクト種別 (「ポイント」、「ライン」、「ポリゴン」、「ピクセル」など)

目録用言語として英語を用いる場合は、「point」、「line」、「polygon」、「pixel」などを用いる。

c) 空間情報の表現に用いられるオブジェクトの数

ラスタ

ピクセル

5000 × 5000

(記述対象は、縦横 5000 ピクセルから成るラスタデータ)

ベクタ

ポイント, ライン, ポリゴン

13535

(記述対象は、合わせて 13535 個のポイント、ライン、ポリゴンから成るベクタデータ)

#2.32.7.1 地図資料のデジタル表現の詳細

地図資料のデジタル表現の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、地図資料のデジタル表現の詳細を記録する。

#2.32.7.2 地図データ種別

地図データ種別は、地図資料のデジタル表現のエレメント・サブタイプである。

容易に確認できる場合は、地図データ種別を、表 2.32.7.2 の用語を用いて記録する。

ラスタ

表 2.32.7.2 地図データ種別を示す用語

ベクタ	vector
ポイント	point
ラスタ	raster

表 2.32.7.2 に適切な用語がない場合は、データ作成機関が地図データ種別を示す簡略な用語を定めて記録する。

#2.32.7.2.1 地図データ種別の詳細

地図データ種別の詳細は、エレメントである。

識別または選択に重要な場合は、地図資料のデータ種別の詳細を記録する。

#2.33 装置・システム要件

装置・システム要件は、エレメントである。

#2.33.0 通則

#2.33.0.1 記録の範囲

記述対象の利用や再生に必要な装置やシステムに関する情報を記録する。

情報源は、#2.14.0.3 に従う。

#2.33.0.2 記録の方法

キャリア種別やファイル種別から明らかに必要と考えられるもの以外の、記述対象の利用や再生に必要な要件を記録する。装置またはハードウェア、OS、メモリ容量、プログラミング言語、必須ソフトウェア、プラグイン、周辺機器などを記録する。

OS: Windows 8.1 Update/7 (SP1) /Vista (SP2) 各日本語版

CPU: Windows 8.1 Update/7/Vista: 1GHz 以上

メモリ: Windows 8.1 Update/7 の 64 ビット版: 2GB 以上, Windows 8.1 Update/7 の 32 ビット版: 1GB 以上, Vista: 512MB 以上

HDD: 300MB 以上の空き容量

ディスプレイ: HighColor (16 ビット) 以上, 1024 × 768 ドット以上

Internet Explorer 7.0 以上

(記述対象は、CD-ROM)

縦振動対応の再生機

(記述対象は、音溝の方向がヴァーチカルの SP レコード)

PlayStation 4

HDD 必須容量: 12GB 以上

(記述対象は、ゲームソフトの Blu-ray ディスク)

#2.33.0.2 記録の方法 別法

装置・システム要件は、記述対象に表示されているとおりに記録する。